ISSN　2432-8189

文化学園長野保育専門学校

研 究 紀 要

第 9 号

2017

研究紀要　第 9 号

目次

保育内容「環境」における地域の偉人についての教育実践報告
－幕末期の松代藩の学者「佐久間象山先生」について易しく語る－
---------- 小山田　広 3

科学は人文系の敵ではない
－アメリカのオピニオン雑誌 *New Republic* に掲載されたスティーブン・ピンカーの“Science is not the Enemy of the Humanities”の紹介－
---------- 守　秀子 9
守　一雄

長野県のある自治体における乳幼児期の子どもと親に向けた子育て支援事業の概要：自然型保育の観点から ---------- 栗原　博士 15

保育内容「環境」指導のための指針：
学生が保育現場で伝承遊びなどを指導するためのアセスメント項目
---------- 戸谷　佳子 21

保育科学生による紙芝居の制作計画 ---------- 小池　悟 29

音楽会の練習を楽しく行うための指導者向けガイドブック作りの試行
---------- 小山田　広 37

保育内容「環境」における地域の偉人についての教育実践報告

－幕末期の松代藩の学者「佐久間象山先生」について易しく語る－

小山田　広

A Teaching Practice Report on Environmental Studies:
An Easy Introduction for Children to Zozan Sakuma,
A Scholar in Matsushiro during the End of Edo Period

OYAMADA, Hiroshi

キーワード：佐久間象山　保育内容「環境」　地域の偉人

１　はじめに

佐久間象山先生は，長野県，とりわけ長野市の子ども達にとって，学んで欲しい郷土の偉人の一人である。

幼稚園教育要領と保育所保育指針に示されている領域「環境」の中のねらいに「身近な環境に自ら関わり，発見を楽しんだり，考えたり，それを生活に取り入れようとする。」とある。環境により深く関わることの一つに郷土の偉人の生き方や業績に触れ，郷土の偉人に誇りや憧れを持ち，郷土を愛する心情の育成が考えられる。

一方，小学校の６年生で歴史の学習をし，郷土の生んだ偉人の一人として佐久間象山先生の名前が挙がるものの，詳しく業績や生き方に触れるまでに至らず，誇りや憧れを持つまでに至らない場合がある。京都での遭難等のこともあり，あまり大きく扱われないこともあったが，その業績や生き方，考え方には，学ぶべきことが多い。小学校や幼稚園，保育園，認定こども園の子ども達に郷土の偉人「佐久間象山先生」の生き方や業績に触れる意義は大きいと思う。

幸い象山先生の資料はたくさん残っていて，地元長野市川中島の八幡原史跡公園には銅像が建てられていたり，長野市松代町では，象山神社や象山記念館があったりと神として奉られるほど尊敬されている。小さい子ども達には理解しにくい部分もあるが，わかりやすい話し方を工夫したり，子ども達の反応を見ながら，視覚的な支援をしつつていねいに語りかけたりすることで，佐久間先生の業績や生き方，人柄に触れ，偉人への憧れや郷土を愛する心情の育成に繋がることと思われる。

２　教材化の視点について

教材化の視点（素材を見極め教材化する）としていくつかのことを考えてみた。

〇幼稚園教育要領や保育所保育指針，子ども達の発達過程とその特性を踏まえつつ，対象とする子ども達にとってわかりやものになっていること

〇事実に基づいていること

〇偉人への憧れや尊敬の念が持てるように配慮されていること

〇ねらいが明確になっていること

〇子ども達一人ひとりの特性を大事にしつつ，個の良さを生かし，主体的な活動に繋がる活動が考えられること　等

以上のような点が挙げられるが，研究を深めながら視点の項目の見直しを考えていきたい。

３　講話の実際

小学生への講話「佐久間象山先生」より

以下，筆者が小学校の校長をしていた時に，校長講話として二学期の終業式に，小学生にした話である。

みなさん，こんにちは。さて，今日は，みなさんも聞いたことのある，この先生のお話をします。この絵(佐久間先生の絵)どこかで見たことありますか？＜図１提示＞

「この先生の名前を知っていますか？」＜挙手した子を指名＞

そうですね。佐久間　象山（ぞうざん）先生です。図書館に飾ってありますね。

今からおよそ１５０年～２００年くらい前，日本で一番勉強をしている人の一人と言われていたこの先生のお話をします。先ほど６年生の発表の中にもありましたね。

松代や長野市，長野県の皆さんは，「さくま　ぞうざん　先生」と言いますが，東京や京都では，「さくま　しょうざん　先生」と呼ばれています。

図１　寄贈された佐久間先生の絵画

図２　象山神社

図３　象山先生の教え子達

この先生はとても有名な先生で，今からおよそ２００年前に松代町で生まれました。象山神社の南の方に佐久間象山先生の生まれた家の跡があります。＜図２提示＞

象山先生は，昔の江戸，今の東京で朱子学という中国の学問の先生をしていました。その後，オランダの学問の先生になって，たくさんの人を教えています。その中には，江戸時代の終わりから明治時代にかけて，とても活躍した，吉田松陰（山口県　長州藩），小林虎三郎（新潟県　長岡藩），勝海舟（東京都　徳川幕府），坂本龍馬（高知県　土佐藩出身）などがいます。多い時で３０００人（この学校の１５倍くらい）の生徒がいたそうです。＜図３提示＞

また，象山先生は，日本で初めて，ガラスのコップやお皿などの器を作ったり，いろいろな薬を作ったり，地震を予知する機械，天体望遠鏡，電信器，カメラ，電気治療器など，いろいろなものを当時日本全国で３冊しかなかったオランダ語の辞書を見ながら，作っていました。

この日本電信発祥地が松代総合病院の東側，サンホールマツシロの東側にあるの知っていますか？＜図４提示＞

さらに，種痘と言って　天然痘という病気の予防注射も，日本で初めておこないました。西洋式の大砲を作って，その実験もしています。

中国の難しい勉強もオランダ語の勉強もたくさんしました。ガラス製品の作成から大砲作りまで，いろいろなことをしっかりとていねいに勉強していた先生です。ある時は科学者，また，ある時はお医者さん，詩人（詩を作る人）で，また，あるときは大砲の専門家，たくさんのお弟子さん達（生徒達）の先生，でした。何でもできて　スーパーマン，ドラえもんのようですね。

皆さんの中には，このお正月に初詣で象山神社に行く人もいるかもしれませんね。今話したように象山先生はとっても勉強をがんばっていたので，勉強の神様とも言われていますね。よくよく象山神社でお参りすると，勉強ががんばれるようになるかもしれませんね。

象山先生がとても素晴らしい人だったので，象山先生の神社ができたり，博物館ができたり，本ができたり，しています。東条小学校の図書館にも本が何冊もあるので，読んでみてください。＜図５提示＞

図４　象山先生の記念碑や発明品

図５　象山先生の本

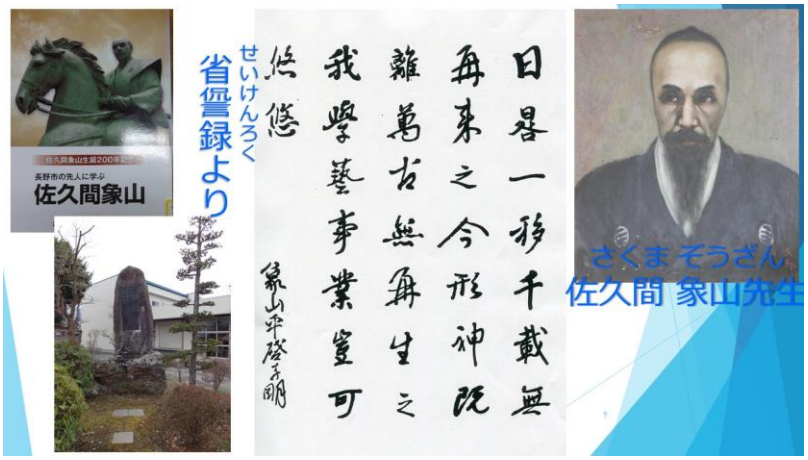


図６　日晷一度の詩

図７　学級へのプレゼント（掲示用の詩）

去年，これと同じような話をして，象山先生の作った漢詩（漢字でできている詩）を紹介したら，それを暗記してくれた友達がいました。さっきも発表してくれた６年生の皆さんです。６年生の皆さん，日晷（にっき）一度（ひとたび）の詩を言ってみてください。
＜６年生暗唱＞
さすが６年生ですね。ありがとうございました。
これがその漢詩です。みんなで読んでみましょう。＜移動黒板へ図６掲示＞
＜日晷（き）一度（たび）の漢詩＞
「日晷一移千載無　再来之今形神既　離萬古無再生之　我学芸事業豈可　悠悠」
日晷（き）一度（ひとたび）移れば　千載（せんざい）再来の今なし
形神（けいしん）既（すで）に離るれば　萬古（ばんこ）再生の我なし
学芸事業　豈（あに）悠々（ゆうゆう）たる可（べ）けんや

中身，内容，意味は，先ほど６年生が紹介してくれましたが，自分の命を，友達や皆の命を，大切にしましょう。ということと，今日という日，今を大事にして，今に全力投球しましょう。という内容です。詳しいことは担任の先生に教えていただいてください。
もう一度読んでみましょう。全員で。
各クラスに（学級に）少し遅いクリスマスプレゼント，そしてちょっと早いお年玉を配ります。一番前の人に代表で受け取ってもらいます。代表の人は，教室で担任の先生やクラスみんなと相談して飾ってくださいね。＜日晷（き）一度の漢詩のプリントをプレゼント包装したものをクラスの代表の子に渡す。図７参照＞
二学期の終わりの終業式で，松代町生まれのとても有名な先生，佐久間象山先生の話をしました。

今日で二学期が終わります。明日から年末年始休みです。安全できまりよい生活をして，来年の１月１０日，新しい年の希望を胸に，皆さんがまた元気に集まることを願って，校長先生の話を終わります。良いお年をお迎えください。

４　課題と反省

内容的には３年生・４年生をねらって話したので，１年生・２年生には難しかったようであったが，教室に帰ってからの子ども達の反応として，象山神社や発明品等については，よく知っている子や，行ったり見たりしたことがある子を中心に盛り上がったようであった。明治維新を支えた勝海舟や坂本龍馬等の象山先生の弟子については，関心が薄かったようだった。６年生が詩を暗記して発表したことや地元の松代中学校にこの詩碑があることから，日暮一度への興味・関心は学年により差はあるものの高かったようであった。

これをきっかけに佐久間象山先生について詳しく調査し始める子が出てきてほしいところである。ちなみに，この年の６年生は，三学期の学習発表会で佐久間象山先生について詳しく調査をし，その生き方や考え方に迫る発表をしたグループがあった。

現在，筆者は保育者の養成校に勤務している。地域の偉人について学生たちに伝えると同時に，幼稚園，保育園，認定こども園の子ども達への地域の偉人（佐久間象山）の伝え方を工夫したいと考えている。

５　おわりに（今後にむけて）

冒頭でも触れたように，保育内容の「環境」のねらいに「身近な環境に自ら関わり，発見を楽しんだり，考えたり，それを生活に取り入れようとする。」がある。環境により深く関わることの一つに郷土の偉人の生き方や業績に触れ，郷土の偉人に誇りや憧れを持ち，郷土を愛する心情の育成が，考えられる。長野市の生んだ偉人「佐久間象山」先生について，さらに調査をしつつ，教材化の研究を重ねながら，子ども達への伝え方の工夫をしていきたいと考えている。また，「環境」の授業の中で教材化について学生といっしょになって考え，研究を深めたい。そして，長野市出身の他の偉人「草川　信」先生や「海沼　實」先生についても調査研究を重ねたいと考えている。

＜文献＞

古川　薫（著）岡田　嘉夫（イラスト）　2006　「佐久間象山」　誇り高きサムライ・テクノクラート　小峰書店

松本健一　2015　「佐久間象山」（上）（下）　中公文庫

長野市校長会　2010　長野市の先人に学ぶ「佐久間象山」　信濃教育会出版部

象山記念館パンフレット及びホームページ資料

科学は人文系の敵ではない

－アメリカのオピニオン雑誌 *New Republic* に掲載されたスティーブン・ピンカーの“Science is not the Enemy of the Humanities”の紹介－

守　秀子　　守　一雄 *

A friendly introduction to and congenial comments on Steven Pinker's “Science is not the Enemy of the Humanities.”

MORI, Hideko　　MORI, Kazuo

キーワード：スティーブン・ピンカー　人文学　科学主義　科学的研究　心理学研究法

＊　松本大学教育学部

はじめに

本稿は、アメリカのオピニオン雑誌 *New Republic* に掲載されたスティーブン・ピンカーの“Science is not the Enemy of the Humanities”(Pinker, 2013)を抄訳したものである。ピンカーはハーバード大学教授で専門は心理学である。とは言っても、心理学だけに収まらない広い範囲の学識を持ち、近接学問領域にも大きな影響を与えてきている学者である。例えば、邦訳があるものだけでも、『言語を生みだす本能 *The Language Instinct*（1994)』『心の仕組み――人間関係にどう関わるか *How the Mind Works*（1997)』『人間の本性を考える――心は「空白の石版」か *The Blank Slate: The Modern Denial of Human Nature*（2002)』『思考する言語 ――「ことばの意味」から人間性に迫る *The Stuff of Thought: Language as a Window into Human Nature*（2007)』『暴力の人類史 *The Better Angels of Our Nature: Why Violence Has Declined*（2011)』と、その博識ぶりがうかがえる。この小論でもその博識ぶりが随所に見られて、使われている用語も難解なものが多い。そこで、ここではピンカーの主張を筆者らの言葉でわかりやすく「翻訳」して紹介することとした。ただし、導入となるこの最初の段落と日本の事情に触れた最終段落は、ピンカーに賛同する筆者らの主張を述べたものとなっている。

ピンカーが訴えたいこと

ピンカーはこの小論に「売れない小説家たち、行き詰まった学者たち、そして職に困っている歴史家たちへの渾身の嘆願(An impassioned plea to neglected novelists, embattled professors, and tenure-less historians)」という副題を付けている。科学の進展、特に、私たちの心、脳、遺伝子、進化についての科学的解明(the sciences of mind, brain, genes, and evolution)によって、人文系の学問にはかつてない大きな恩恵がもたらされた。考えてみれば、デカルトやルソー、カントといった過去の偉大な思想家たちは、ニューロンも、ホルモンも、遺伝子も知らずに人間について探究していたのである。ピンカーは、タイムマシンで彼らの時代に行って、21 世紀の大学一年生でも知っている科学的知識を少し教えてあげたいくらいである、と述べている。そして、「もし彼らが、こうした知識を持っていたら、どんなことを考えただろうか」と想像する。

しかし、そんなことをしなくても、現代にも秀れた思想家はいるのだから、「現代のデカルトやカント」はこうした科学的知識を活用して、素晴らしい思索をなすはずである。ところが、人文系の学者たちは自分たちの研究領域に科学が侵攻してくることを好ましく思っていないようなのだ。ブッシュ元大統領の生命倫理顧問だったレオン・カス(Leon Kass)はこうした人間の科学的理解を目指す立場を「心のない科学主義(soul-less scientism)」と批判している。現代の人文学者たちは、せっかくの現代科学の恩恵を活用しようとしないのである。そこで、ピンカーはこの小論で人文系学者たちに嘆願しているわけだ。

ピンカーによる「科学主義の 2 つの特徴」

科学主義は悪いことではない。もちろん科学は万能ではないし、科学者たちが昔の思想家より優れているわけでもない。科学とは、自分たちが無知で間違いやすいことを前提にして、互いに間違いを指摘しあい批判しあうことで、真実に迫ろうとする不断の活動にすぎない。だから、科学においてはすべての知見は仮説である。科学者たちは、人文系の研究分野に侵攻し、征服しようとしているわけでもない。

ピンカーによれば、科学主義は、科学未踏の領域に 2 つの考え方で臨もうとしている。その一つは、「我々を取り巻く世界を理解することは可能だ(The world is intelligible)」と考えていることである。今はまだ理解できないことも、少しずつ理解していくことができるはずだという強い信念こそが科学の原動力なのである。

複雑な現象をすでにわかっているより単純な原理や法則で説明するやりかたは、「還元主義(reductionism)」という批判を受けることがある。しかし、科学者も第一次世界大戦を物理学や化学で説明しようとするわけではない。当時のヨーロッパの国々の支配者たちがどんな世界観と目的を持っていたのか、そして、なぜ人はそうした考えを持ちやすいのか、を説明しようとするのである。さらには、民族主義や過信、名誉欲などの人間の心理を解明することで、それらの不幸な重なりが戦争を引き起こしたという説明に行き着くことができる。

科学主義が取るもう一つの考えは、「知識を得ることは難しい(The acquisition of knowledge is hard)」というものである。世の中の真理は簡単には解明できない。だから科学者は、人は錯覚を起こしやすく、間違いを犯しやすいことを前提として、まずはすべてを疑い、議論しあって、しっかりとした定式化と厳密な検証を繰り返していくのである。

人間の本性についての科学的理解

こうした 2 つの信念に基づいて、人間の本性を科学的に考えると、具体的にはどんなことになるだろうか。たとえば、「私たちはなぜここに存在するのか」といった最も根源的な問いについて考えてみよう。これらの問いは伝統的に宗教家たちの領分であり、だからこそ、彼らは科学主義に最も強く敵対してきている。そこで、ここでもキリスト教の教義と対比しながら考えてみよう。まず、私たちは神によって作られたのではない。私たちは 40 億年前に化学的複合物として地球に誕生した生命から進化してきたものであり、地球上の他のすべての生物と共通の祖先を持つ生物である。進化の長い時間から考えるとわずか 500 万年ほど前になって、アフリカに生まれた単一の種(Homo Sapience)が私たちヒトである。農業や、政治、文字の使用など他の動物との違いを際立たせてきたのはさらに最近のことにすぎない。

私たちの住む宇宙も神が創造したわけではない。宇宙は 138 億年前のビッグバンに始まり、私たちの住む地球は、4 千億個もの星からなる銀河系のほんの 1 つの星（太陽）の惑星であることも科学によって明らかにされてきた。さらには、私たちの人生に起こるさまざまな現象も神によって運命づけられているわけではない。私たちの一生を含むすべての自然現象は偶然によるものであり、なんの目的も関わっていない。人の運命であるとか、宿命とかも存在しないし、自然の祟りや悪魔の呪いもなければ、善行への報いもないのである。にもかかわらず、私たちはそうした神秘的な因果を信じがちである。なぜそうした誤信が起こるのかさえ、科学的研究によって説明ができるようになっている。人は、自然現象から因果関係を見つけ出すような認知の仕組みを進化させてきたために、偶然に起こったことまで過度な意味づけをしてしまうのである。

世界が神によって作られたわけでもなく、神が支配しているわけでもないとすれば、私たちは、神の加護を求めるのではなく、自然現象を科学的に理解することによって、私たち自身の力で私たちの幸福を実現しなければならない。科学は既に人類への多くの貢献をしてきている。なによりも科学的な知識を社会に普及させた。上に述べたように、現代人なら地球の成り立ちや生物の進化について誰もが知っている。そして、科学のおかげで私たちの社会はかつてないほどに幸せな社会になってきている。

科学技術は人類を幸福にしてきた

科学技術のおかげで人類は確実に幸福に暮らせるようになってきている。数千年間にわたって古代の人類は飢えていたが、地球上の飢餓は克服されつつあり、誰もが学校に行き、

民主的な制度のもとで平和に暮らせるようになった。携帯電話を使うなどのちょっとした贅沢も可能になり、世界中で平均寿命も劇的に伸びた。ピンカーが別のところ(Pinker, 2016)で述べている「人類に起きた 10 のいいこと」もそのほとんどが科学によってもたらされたものである。以下に、この 10 のいいことを箇条書きする。

1）寿命の延長：わずか 150 年前には 30 歳だった人類の平均寿命は 70 歳にまで伸びた。
2）病気の撲滅：天然痘は撲滅され、近い将来、他の多くの病気が撲滅される。
3）豊かな生活：世界の 85%が極貧だった 200 年前に比べ、貧困は 10%にまで減った。
4）平和の実現：大国間の戦争はこの 60 年間起きていない。
5）犯罪の減少：世界中で暴力犯罪が激減し、殺人件数も減り続けている。
6）自由社会の拡大：世界人口の 60%以上が民主的な社会に住んでいる。
7）教育の普及：基礎教育はすでに世界の 82%が受けられていて、いずれ 100%になるだろう。
8）人権の確立：児童労働、死刑、人身売買、女性の性器切除などの野蛮な慣習は大幅に減少した。
9）男女平等：女性の教育水準が高まり、婚期が遅くなり、所得が増えた。
10）知性の向上：世界のすべての国で知能指数が上昇している。

科学的研究の導入を拒む２つの間違った理由

にもかかわらず、人文系の人々はこうした科学の恩恵に対し、科学の持つ悪い面を強調することで受け入れることを拒んできた。その結果、現代社会においても一般の人々の科学への理解はきわめて不十分でもある。有名大学の学生でさえ、人文系の学生はほとんど科学を学ばずに卒業していく。こうした学生たちは大学で科学について間違った考えを教え込まれている。科学の素晴らしさを減じるかのように、科学の悪い面が抱き合わせで教えられることが多く、その「悪い面」は些細な現象を誇張したものだったり、間違った解釈に基づくものだったりする。たとえば、ダーウィンの進化論は、社会進化論や優生学を生み出したかのように論じられることが多いが、それはまったくの誤解である。（社会進化論はイギリスの哲学者 H. スペンサーの思想である。）その他にも、科学が一部の間違った使われ方をした例をことさらに大きく取り上げ、科学が社会全般に広く深く貢献してきたことと対比させて、あたかも科学には善と悪の両面があることを強調するのも非科学的学問領域側の常套手段である。

人文系の学者は、科学の基本的研究方略である「単純化(simplify)」を、軽蔑的な意味合いを持つ「愚かな(simplistic)」という表現で批判しようとする。しかし、そうした言葉の遊びで科学的な研究方略を退けようとしていたのでは、人文系の学問は進展しないであろう。研究の対象をとなる複雑な現象をいろいろなレベルに単純化し、いろいろなレベルごとに解明していくことを拒んで、複雑な現象をありのままに理解しようとしていたのでは研究はいつまでたっても現状に停滞したままになる。単純化を嫌って、複雑な現象を複雑なまま

で捉えようとする人文系学問のこうした研究方略は、完全な正確さ求めて「原寸大の地図」を作った愚かな地図職人を描いたホルヘ・ルイス・ボルヘス(Jorge Luis Borges)の寓話を思い出させる。

人文系の学問の衰退とその解決策

人文系の学問はこのようにして科学的方法の「侵略」に強く抵抗してきた。しかし、その結果、人文系の学問は危機に瀕することになり、大学の人文系は縮小され、多くの若い人文系学者が職に就けない状態に陥ってしまった。こうした人文系学問の衰退は、社会全体に進行する反知性主義や大学の商業主義にも原因があるだろう。しかし、人文系の学者たち自身の責任も大きい。人文系の学問には進歩がない。それは、冒頭に述べたように、科学が明らかにしてきた知見や科学が発展させてきた研究手法を人文学者たちが積極的に取り入れようとしてこなかったからである。

科学的な研究方法を取り入れることで、人文学は大きく改革されるはずである。芸能や文化、社会といったものも結局のところ人間の脳が生み出したものであり、それは脳の知覚する働きや考える働き、感情などが複雑に絡み合って個人を動かし、それがまた他人に影響することでできあがったものである。こうした脳の働きを知ることで、人文学の領域の理解が進むはずである。科学者側も科学的な研究方法が人文学の豊かな研究領域にどれだけ活用できるか挑戦したいと考えている。考古学や言語学のように科学との共同研究が当たり前になった領域もある。視覚芸術の世界は、視覚科学から多くの恩恵を受けるはずであるし、音楽学者は、人間の聴覚を研究している科学者との共同研究から学ぶことが多いはずである。

科学の貢献は、科学と縁遠い存在だった政治の領域にも及ぶ。政治的な決定は長い間、科学的とは言えない方法でなされてきた。必ずしも同等とは言えない過去の事例に基づいたり、政治家の巧みな言い回しが人気を博したりして、結局は政治資金をより多く出した者のための政策がとられることになってきた。しかし、データサイエンスの手法を活用すれば、もっと科学的な方法で、客観的により正しい政策の選択ができる。純粋な文学の研究者は、一足先に科学化された認知心理学や社会心理学、進化心理学や行動遺伝学から多くの示唆を得られるだろう。政治と同様に、データサイエンスの手法を活用すれば、人文学は“デジタル人文学”へ発展する道も開かれている。

おわりに：日本の事情も同様である

安倍政権の下、2015 年に文部科学省が人文社会科学系の学部や大学院について、廃止や社会的要請が高い分野への転換に努めるなど、組織と業務全般を見直すよう通知を出したことが日本でも話題となった。人文系の学問の停滞は日本でも同様なのである。筆者らがピンカーのこの小論を紹介しようと考えたのも、ピンカーの提案する解決策が日本の人文系にも有効だと考えたからである。筆者らが基盤とする心理学は一般には文系と思われてい

るが、現代心理学の始まりがブント(Wilhelm Wundt: 1832-1920)のライプチヒ大学での心理学実験室創設とされるように、そのスタートから科学を目指したものだった。人の心という扱い難い研究対象に科学の方法論で迫ることが心理学という学問の本質なのである。心理学の歴史は、いかにして人の心を研究するかという研究方法開発の歴史だったと言っても過言ではない。ブントの実験室創設の 1879 年以来、心理学者が開発してきた研究方法はバラエティに富んでいる。ピンカーも述べていたように、人文学が科学的方法を取り入れるとすれば、そのモデルとなるのは心理学であると思う。考えてみれば、人文学とは結局のところ人の種々の活動についての研究なのであり、人の活動の背景には必ず人の心がある。人文学の科学化と言っても、物理学や化学の実験を導入するのではない。心理学の実験手法を取り入れればいいのである。カシオッポ(Cacioppo, 2007)はこうした点に注目し、心理学が科学と他の文系の学問とのハブ（ハブ空港のような中心的中継点）となるべきであると主張している。余談になるが、カシオッポが国際的な科学的心理学の学会 APS(Association for Psychological Science)の会長だった際にこうした主張内容の会長講演を行った。筆者らの一人はたまたまその講演を聞いていたが、カシオッポのパーマのかかったような長髪の風貌はピンカーにそっくりであった。もっとも、今はすっかり短髪になり、イメージチェンジしてしまった。人文系の学問も早くイメージチェンジしてもらいたいものである。

引用文献

Cacioppo, J. (2007) Psychology is a Hub Science. *Observer*. 2007 Sep;20(8):5–42. (https://www.psychologicalscience.org/observer/psychology-is-a-hub-science)

Pinker, S. (2013) Science Is Not Your Enemy: An impassioned plea to neglected novelists, embattled professors, and tenure-less historians. *New Republic*, 2013. (http://www.newrepublic.com/article/114127/science-not-enemy-humanities)

Pinker, S., Ridley, M., de Botton, A., & Gladwell, M. (2016) *Do Humankind's Best Days Lie Ahead? The Munk Debates*. House of Anansi Press: Toronto, ON（S. ピンカーほか『人類は絶滅を逃れられるのか』ダイヤモンド社，2016 刊）

長野県のある自治体における
乳幼児期の子どもと親に向けた子育て支援事業の概要：
自然型保育の観点から

栗原　博士　＊

Outline of a Municipal Childcare Support Project for
Parents and Early Children in Nagano Prefecture:
Some Examples of Nursery Care in Natural Environment

KURIHARA, Hiroshi

＊　長野県須坂看護専門学校非常勤講師　長野市こども相談室在宅発達相談員

キーワード：信州型自然保育、やまほいく、人間関係、遊び、自然、季節感

Ⅰ　はじめに

今回、A 村が行っている乳幼児期の子どもとその親に向けた子育て支援事業（以下、子育て広場）について、紹介をおこない、考察を加える。

A 村では保健師を中心に、未就園児がいる家庭に対して、村内の保健センターや小学校などを活用し、その季節に応じた遊びや体験を親子で経験してもらうことを目的に行っている。また、山に囲まれた村の特性を生かし、遊びなどを通して親子や同世代の子どもと一緒に、すぐそこにある自然に触れてもらうようにしている。

長野県は近年、自然に囲まれた環境を生かした信州型自然保育（以下、信州やまほいく）を推進している（長野県、2015）。自然保育とは、「屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、知力と体力も同時に高めることができるとされる新しいスタイルの保育・幼児教育」とされている（長野県、2015）。自然に触れながら遊ぶことや体を動かすことで、子どもの発達を促すことが考えられる。さらに、国立青少年教育振興機構（2010）によれば「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、丁寧な言葉を使うことができるといった日本文化としての作法・教養が高い」と報告されている。この報告の「体験」には、自然体験が含まれていることから、自然と触れ合うことと子どもの発達との間には関連があると考えられる。

また、遊びについて Winnicott（1971/1979）は「遊ぶことは成長を促進し、健康を増進する。また、遊ぶことは集団関係を導く」と述べ、田上・伊澤（2015）でも遊ぶことがストレス解消につながったり、人間関係を促進する動機づけを高める働きがあり仲間意識が育つと述べている。

遊びを通して自然に触れ、季節感も感じることができる A 村の子育て広場は、まさに以上のことを具現した保育を推し進める事業であると思われる。本稿では、その内容を紹介し、その意義について考察を加えることとする。

Ⅱ　活動方法

1. 子育て広場実施スタッフ：保健師 3 名、保育士 1 名、巡回相談員 1 名、他数名

2. 子育て広場参加者：乳幼児（0～3 歳頃）、保護者（大半が母親）

3. 活動場所：保健センター、児童センター、保育園、小学校

4. X 年の子育て広場の年間スケジュール（表 1）

Ⅲ　活動内容

子育て広場における 1 年間の活動スケジュールを、表 1 にまとめ、簡単な説明を加える。

表1　X年の子育て広場のスケジュール

年　月	活動内容	活動場所
X年 4月	顔合わせ・新聞紙プール	保健センター
X年 5月	紙芝居・自由遊び	保健センター
X年 6月	七夕（飾りつけ）	児童センター
X年 7月	水遊びで使えるオモチャ作り	保健センター
X年 8月	プール	保育園プール
X年 9月	水遊び	児童センター
X年 10月	運動会	保健センター
X年 11月	焼き芋	小学校グラウンド
X年 12月	クリスマス会	保健センター
X+1年 1月	お菓子作り	保健センター
X+1年 2月	紙芝居・自由遊び	保健センター
X+1年 3月	お別れ会	保健センター

1. 新聞紙プール

X 年度初回ということもあり、親子ともに緊張している様子が見られた。保護者の近くから離れることが出来ない子どもが多くいた。その中で、新聞紙プールを行った。プールの水を模した様々な大きさにちぎった大量の新聞紙を床に敷いたブルーシートに撒いた所、子どもの興味を惹いたようで、どんどん保護者から離れ、新聞紙プールで子どもが遊びだした。子どもが横になれば、新聞紙を布団のようにかけることができたり、新聞紙の中に埋もれることができたりする。スタッフや保護者が上からかけると、新聞紙の雨が降り注がれたようになる。周りの大人がこのような関わりをしていくと、最初は自分だけで楽しんでいた子どもが、次第に大人（まずは母親や近しい人）に向かって同じような行動をとる姿が見られるようになった。

2. 七夕（飾りつけ）

親子で七夕飾り“輪っかつなぎ”“ちょうちん”を作ってもらい、山から採ってきた笹に飾り付けてもらうようにした。さらに、用意した短冊に子どもの願い、もしくは子どもに向けた保護者の願いを書いてもらい、笹に結びつけた。飾り付けた笹を、児童センターの外に七夕が来るまで飾り、いつでも子どもが見に来られるようにした。

3. オモチャ作り

プールや水遊びの回に持参できるように、またお家でも遊べるように“牛乳パックシャワー”を作った。500ml の牛乳パックを各家庭１つずつ使って、作成した。牛乳パックは硬いため保護者に切ってもらった。側面や内側には、子どもに好きなように絵を描いてもらい、自分だけの牛乳パックシャワーを作った。

4. プール

保育園にある未満児用のプールを借りて、水遊びをした。保育園にあるオモチャも借りて、持参した牛乳パックシャワーやペットボトルシャワーで水をかけてもらったり、スーパーボールを沈めて取るなどの遊びをした。また、水が苦手な子どもは園庭に出て、保護者や保育園児と遊具で遊んだり、お花摘みや虫を捕まえるなどもしていた。

5. 水遊び

児童センターが持っているビニールプールを使ったり、ホースから放水して水浴びしたり、近くの川まで行って水に触れてくることをしていた。

6. 運動会

勝ち負けというよりは、親子で体を動かすことを目的にした。親子がボールを一緒に持って走ったり、パン取り競争をしたりした。また、同世代の子どもでフラフープの中に入って

列車のように走る競争もした。子どもは楽しんでいる様子だったが、保護者の方が熱中している様子で、自然と応援する声や笑い声が出ていた。

7. 焼き芋

村内の小学校のグラウンドの一角を使って、地域のボランティアの方々の協力を得て、焼き芋大会を行った。地域柄、多世代家族が多く、祖父母が自宅で薪を使って火を起こしている所を見ている子もいたが、ほとんどの子は目の前で薪を組んで火を起こすことに興味津々な様子で見ていた。焼き上がるまで、校庭にある遊具で遊んだり、さまざまな植物に触れたり、木の実やドングリを拾ったりしていた。また、火に興味があったり、お芋がどうなっているかを知りたい子は火の近くに行くが、熱さを感じて離れてしまう様子が見られた。焼き上がると、アツアツの焼き芋を保護者と一緒にもらい、食べていた。

8. クリスマス会

筆者がサンタクロースの衣装を纏い（ヒゲやメガネもして)、子どもの前に現れてクリスマスプレゼント（お菓子）を渡すことをした。サンタクロースが登場する前に、登場することを伝えているが、いざ目の前に来ると怖くなってしまい固まってしまう子、泣き出してしまう子、保護者にしがみ付いて離れられない子もいた。中には、「(サンタクロースが筆者ということを）知っている。」と話し出す子もいた。プレゼントをもらえるということでウキウキして、サンタクロースに近付いて行ける子もいれば、数歩近づいて大泣きしてしまって保護者がプレゼントを代わりにもらってもらう子もいた。

Ⅳ　考察

今回、A 村で行っている子育て広場について述べてきた。A 村が行っている子育て広場が、長野県が提唱している信州型やまほいくに近いものがあると感じた。そこで、実際に行った子育て広場を紹介することで、自然や季節感に触れる活動はどのようなものを行っていたのか、自然や季節感に触れた子どもの反応はどのようなものだったのかをまとめることができると考えた。

長野県には多くの自然が眼前に広がっている。その中でも、A 村は山に囲まれており、日々暮らす中でも自然や季節感に触れることができる環境となっている。このような環境に居る子どもに、子育て広場という場を通して日々の暮らしとは違ったアプローチで、乳幼児期から季節で変わりゆく自然に触れてもらうことが出来ていると考えられる。

年度初めは、昨年度から引き続き参加している親子もいれば、初参加という親子もいる。その場に慣れている子どもや保護者は動いたり、ママ友と話したりできる。しかし、慣れない親子にとっては何をしていいのか分からないというところがあり、輪から少し離れ座っている様子も見られた。その中で新聞紙プールを行うことで、子どもの興味を惹くことがで

き、参加者全員が新聞紙プールの方へ向かうことが出来た。新聞紙プールで遊ぶことで、近くにいた友達とも笑うことができ、保護者も自然に隣になった方と子どもに視線を向けながら話ができるようになっていた。同じ遊びを通じて、親子ともども緊張感が薄れたと考えられる。

焼き芋大会では、スイッチポンで火が点くのではなく、薪を組んで火を起こすことを経験した。家のコンロとは火力が違うため、近寄ると熱さを全身で感じることができていたのではないかと思われる。しかし、熱さを経験したとしても、火への興味なのか、お芋の状況を知りたいのか、何度か近付いては熱さで離れることを繰り返していた。また、子育て広場を通じて仲良くなった友達と虫を見つけたり、実った木の実やドングリを手に取って集めたり、食べてみたりしていた。でき上がった焼き芋を、その場で少し冷たさを感じる空気に触れながら親子で食べることも、自然体験につながっていると思われる。

一年間通じて行う子育て広場を振り返ってみると、子どもだけではなく保護者も、周りの人とのつながりや関わり、自然に触れることで大きく変化していると考えられる。これは、信州型やまほいくで提唱されていることや国立青少年教育振興機構（2010）が述べていることと繋がるものがあると思われる。

また、遊びを通して友達作りができたり、親子で何かに一緒に取り組む時間が増えたり、保護者同士のつながりができたりということがあったと考えられる。田上（2017）は、遊びの身体的運動と発声によって不安を緩和することを述べている。つまり、子育て広場での活動をすることで、身体を動かし、笑ったり声を出したりするようになり、そのことが周りの人との関係を築く要因になったと考えられる。保育園に上がる前から、同世代の子との遊びを通して人間関係を築いていく体験を積むことで、保育園への移行をスムーズにすることが可能になるのではと思われる。

最後に、自然に囲まれた長野県であるため、その特性を生かした子育て支援を行い、自然や季節感に触れていくことで発達を促すこと、遊びを通じて親子・友達という人間関係を築き上げてもらいたいと思う。

引用文献

独立行政法人国立青少年教育振興機構（2010）.「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」平成 22 年 10 月報告書.
http://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/62/File/10taiken-gaiyou.pdf（2017 年 9 月 27 日取得）

伊澤孝（2015）. 対人関係ゲームの理論. 田上不二夫（監）. 学校の仲間づくりに活かせるグループカウンセリング――対人関係ゲーム集. 金子書房, pp.139-140.

長野県（2015）. 信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度.
https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/shizenhoiku-

ninteiseido.html（2017 年 9 月 27 日取得）
長野県（2015）．信州やまほいくの郷．http://www.shizenhoiku.jp/（2017 年 9 月 27 日取得）
田上不二夫（2017）．不登校の子どもへのつながりあう登校支援．金子書房，pp.102-103.
Winnicott、D.W.（1971）．*Playing and reality*. London : Tavistock. 橋本雅雄（訳）（1979）．遊ぶことと現実．岩崎学術出版社.

保育内容「環境」指導のための指針：

学生が保育現場で伝承遊びなどを指導するためのアセスメント項目

戸谷　佳子

A Guide for Environmental Studies：Assessment Items for Students in Teaching Traditional Nursery Plays and Games in Pre-schools

TOYA, Keiko

キーワード:　伝承遊び　アセスメント　領域「環境」

1. 問題と研究の目的

文部科学省は「幼稚園教育要領解説」(2008)の中で「保育者が教育内容に基づいて計画的に環境を作り出し、その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮し展開する生活を通して、望ましい方向に幼児の発達を促すこと」が重要であるとしている。また、領域「環境」ではねらいの一つとして「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ」というものがある。

伝承遊びやネイチャーゲームは自然に触れながら他の幼児とかかわることが出来るものである。これらのゲームや遊びは「ルール」や「やり方の手順」があり、その元で成り立つ遊びが多い。自由遊びでは子ども達はそれぞれにやりたいことをやりたい場所でやりたい人と遊ぶ。一方主活動の中には、クラスや学年単位などの集団で同じ空間でルールや決まり事に従って遊ぶ活動を行うこともある。保育者を目指す学生は、現場に出て子どもたちに遊びの指導をするために多くを学んでいる。

これらの遊びの指導に特に関係がありそうな本校授業の内容を見てみると、「環境指導法」では遊びについて保育現場で実践や応用ができるように指導を受ける。さらに子ども達を囲む様々な環境について学ぶ。「発達心理学」では子ども達の心と体の発達段階及びその特性について学び、「教育心理学」では学習理論や集団についても学ぶ。「音楽表現」では、歌や楽器などの子ども達への指導法を学び、「造形表現」では現場での造形活動の実践に結びつくことを学ぶ。「身体表現」では、子どもが豊かに安全に身体表現できるよう指導する方法を学ぶ。「障害児保育」では障害の理解に加え状況に合わせた支援の仕方なども学ぶ。「保育原理」では保育を支える基礎的な理論や知識を学ぶ。「教育相談」では連携して子ども達の支援をすること、保育者自身の気持ちのコントロールやメンタルヘルスなどについても

学ぶ。「人間関係指導法」では子どもの対人関係について扱っている。

さらに本校学生における実習に関して以下のような報告がある。森(2013)により自分が子ども達へ指導する体験をしていること、塚田(2014)は学生が子ども達へ指導する場面において、担当職員から指導も受けていることを明らかにしている。さらに守ら(2011)は、学生が実習の回数を重ねることで学生自身の自己評価が伸びていることを報告している。

しかし、集団に対してルールや決まり事がある伝承遊び・ゲームを指導することに関して、学生は現場に出てからの不安がいまだある。そのように不安を感じている学生に対して、「不安なんだね」と話を聴いて気持ちを受け止め、その後「現場で少しずつ覚えればいいよ」「未知のことだから不安があるのも仕方がない」「誰にでも最初は不安がある」「今は授業をしっかり聞いておいてね」ということで良いのだろうかと筆者は考える。また学生の日常の会話から「高校までは教科の違いがはっきりしていたが、この学校に入ってからどの授業で何をやっていたか、担当の先生が誰だったかもわからないくらいだ」ということを聞いたことがある。確かに、保育者養成の授業は違った授業名が付いていても内容は重なっていることが多い。保育者になるために授業のタイトルが違っていても重要な点が重複して扱われることは自然なことである。そのために学生が「また同じような話を聞く」ということとして捉えてしまうのはとても残念である。学生が重要な内容を「何度も違った授業で同じような内容を聞くということはそれだけこれが大事なことなのだ」と理解して受講することが望ましいと思われる。そのうえで伝承遊びやゲームの指導に影響を与える授業に関して整頓できると、知識と現実の指導が結び付き、学生が保育者になった折には幼児期の子どもたちへの指導が安心してできるのではないだろうか。

さらに伝承遊びやゲームなどの活動について違う角度からの検討も必要であると考えられる。子どもたちへ遊びの指導をするにはねらいがある。そのねらいを明確にするのがアセスメントであると考えられる。伝承遊びやゲームなどの指導には技術の要素も含まれる。大澤(2015)は、「技法はある目標を達成するためのものであり、その目標を明確にするのがアセスメントである。アセスメントと目標なしには技法は存在しない」と述べている。しかし遊びの指導は保育者が経験と職人技で行っていることが多いようである。

保育現場では不安なことやわからないことは先輩や上司に相談することが必要になる。学生は保育の場面は保育者一人で子どもたちを指導することは難しいということも、相談したり連携したりすることなどが大切であることも学んでいる。現在チーム支援という言葉を知らない学生はいない。しかし学生はいつ、どのように、誰と、何を相談や連携をしたらよいのかわからないので、相談や連携することへの不安があるとも考えられる。

伊澤・田上(2012)は教員同士でアセスメントをし、援助方針を検討するスタッフ会議を提案している。集団での伝承的な遊びなどを指導するための保育者が共有できるアセスメントがあればそれを元に環境構成を考えることや同僚や上司に相談することも明確になると考えられる。

しかし保育者が現場で一見してわかるようにまとめられたものは見つからない。

伝承遊びや、植物や土などの自然に触れながらその中で人との関わりも学ぶことが大切であると考える(田上,2017)対人関係ゲームは、國分(1992)が開発した構成的グループエンカウンターのやり方を拮抗動作法のなかで活用するところから始まった。現在はこの対人関係ゲームは、伝承遊びやネイチャーゲームを含む様々な遊びやゲームを楽しみ、またその遊びを通して人間関係をつくるための理論・技法となっている(田上,2010)。この対人関係ゲームの中から、学生に伝承遊びやゲームを体験させる指導を行った際の報告と、その実践についての考察を述べる。具体的には、合計 5 回の教育実習・保育実習を終え、半年後に卒業を控えた学生に対していくつかのルールや決まり事があるゲームや遊びを数種類紹介し、実際に体験させた実践について報告する。その上で学生が将来保育者として伝承遊びやゲームを幼児に指導するときに簡単に使えるアセスメントを考察する。さらにそのアセスメントをもとに具体的に保育者が配慮する点をも考察する。

2. 実践(学生に体験させた伝承遊びとゲーム及びふりかえり)

表 1 は筆者の受け持つ「人間関係指導法」において学生に体験させた伝承遊びやゲームである。

このときの振り返りにおいて、学生からとまどいが表現された。「自分がやってみてとても楽しかった。しかし、自分が保育者（本稿では、幼稚園教諭・保育士・保育教諭をさす）としてこのような遊びなどを子ども達へ指導できるだろうか」、というとまどいである。その主なものが以下の通りである。

■学生のふりかえりの中のとまどいや不安（子ども達に指導するときのこと）

子ども達が遊びを理解してくれるだろうか
子ども達が自分の話を聞かないかもしれない
遊びのルールを子ども達にわかるように説明できるだろうか
子ども達は遊びを楽しんでくれるだろうか
子ども達が遊んでいる中でけがをしたらどうしよう
遊びの中でけんかになったらどうしよう
子ども達が遊びを「楽しくない」と言ったらどうしたらよいか
「遊びをやりたくない」と言われたらどうしたらよいだろう
他の子と一緒に出来ない子どもへどのように支援したら良いか
鬼ごっこなどで「鬼が嫌だ」と子どもが言ったらどうしたら良いか
子どもが遊ぶ道具や材料は安全だろうか
飽きずに楽しめるようにするにはどうしたら良いか

表１　学生に体験させた遊びの種類と内容

遊びの種類	遊びの内容
あいこでじゃんけん	リーダー(教師)と同じものを出す
ひたすらじゃんけん	できるだけたくさんの人とじゃんけんをする
じゃんけんボウリング	２チームに分かれ、１チームはピンになり、もう１チームはボールになる。ボールのチームはピンのチームとじゃんけんをして勝ち進む。ボールとピンの役割を交替して一定時間内に何点取れるかで競う。
凍り鬼	鬼につかまると凍って動けなくなる。逃げている人は凍らされている仲間をお助けカードを渡して溶かすことができる。
新聞紙でタワーを作る	グループ対抗で新聞紙で高いタワーを作る
廃材を使ったみんなでコラージュ	チラシや雑誌や廃材などを使ってチームで協力して一つの作品を作る。
友達とスクイグル	パソコンの絵を描くソフトを使って二人で順番に一筆描きをしていく。先攻の人が一筆描きしたところに後攻の人が一筆加えていく形で一つの絵をつくる。

3. アセスメント項目選定と具体的な対策検討

保育者を目指す学生が伝承遊びなどの指導において不安に思うことへの示唆は、Q&A などで扱われている(田上・伊澤,2015)、(富山県総合教育センター教育相談部,2017)。

また以下のように遊びの指導に関係する研究がある。例えば、中ら(1994)、工藤(2016)は就学前児への一つ一つの遊びに関して援助の仕方を考察している。これらの論文では発達や特性に合わせた援助が事例をもとに取り上げられている。山本・田上(2005)は遊びやゲームそのものの性質についての研究を行っている。岸田(2000)は小学２年生で特別支援学級に所属する子どもが通常学級において対人関係ゲームを一緒に行うことへの支援で、事前に SST を取り入れ、服薬により医学的なサポートも得た上で通常学級でゲームを行うときにはティームティーチングによる支援も加えた。このように他の子ども達と一緒に遊ぶためには、遊びに至るまでの対応が個々の状況に合わせて行うことが必要であることが示唆されている。酒井・田上(2008)は、遊びのルールを簡単なルールから組み立てて、スモールステップで提示する工夫を提案している。さらに環境構成の一つとなる保育士についても、木曽(2012)は保育士が保育を子どもに合わせることで子どもの問題が縮小し、保育士の困り感が軽減することを明らかにした。また木曽は子どもに合わせるためには個と集団のダイナミズムを踏まえた保育の必要性も明らかにしている。

上記のような研究からアセスメントが必要な観点を田上らの Q&A(田上・伊澤,2015)と富山県教育総合センター教育相談部(2017)の「学級の集団作りプログラム」を参考に表にまとめた。そこに養成課程に於いて学生が受講している授業の中でより関連すると思われるものを取り出した。そしてこれらの授業を遊びの指導との関係において俯瞰して見ることが出来るように配置した。

表 2　保育現場で必要とされるアセスメント内容と具体的対策の例のまとめ

アセスメントの内容		具体的な対策の例	関連する授業
子どもの様子	子どもの年齢とその発達段階	担当の子どもの年齢と発達段階を考慮し、年齢に応じた遊びや道具・材料を選ぶ。また、スモールステップで少しずつ出来ることを増やす。	発達心理学 教育心理学 保育原理 障害児保育 教育相談 人間関係指導法 健康指導法 子どもの保健 音楽 図画工作
	一人一人の子どもの発達の様子	複数の保育者で、一人一人の子どものアセスメントをし、遊びの選択で、身体接触の少ないものを取り入れるなどの考慮をしたり、苦手な刺激を減らしたりするなどの工夫を加える。また、必要に応じて専門家のアドバイスを受ける。更にティームティーチングの導入や役割分担など保育者が連携することも考える。	
	集団の様子	人数や、日頃の子ども達のかかわりの様子から気になることを考慮する。複数の保育者で集団を見ることで検討する。	
	子どもの遊びの好み	普段している遊びを観察する。また遊びの中での関係性も観察する。	
	子どもの健康状態	子どもたちの体調を観察し、遊びの早さ・運動量を考慮する	
遊ぶ環境	遊ぶ場所(広さ・地面の状況・周辺の状況等)、遊びに使う材料・遊具、一緒に遊ぶ人(年齢構成・保育者など)	その他のアセスメントに従い場所や材料、遊具などを選定する。また保育者が複数なのか、子ども達の年齢構成はどのようであるかを考慮する。	
遊びの特性	行動範囲、行動の激しさ、子ども同士の関わりの度合い・接触など、遊びの複雑さ、遊びに要する時間、勝敗があるかどうか	遊びやゲームの内容そのものがどのようであるかにより、動機づけの仕方を工夫したり、視覚支援等で説明をしたりなどする。また、勝敗のある遊びは子ども達の様子などからけんかが想定される場合もある。そのときは複数対応をするなども考慮する。	
保育者	保育者自身の遊びの好み、子ども達との関係性、自分のメンタルヘルス、知っている遊びの種類	保育者自身が自分の好みや得手不得手、精神状態に気付き、調整する。また、保育者が歌・楽器・体を動かす遊び・絵や身の回りのものを使って何かを作るなど様々な遊びを習得することで選択肢が増える。子ども達との関係で不安がある場合は、チームで支援する。(ティームティーチングなどを考える)	

4. 終わりに

アセスメントはより多角的な検討が必要であると考えられる。そのために更に研究を重ね、学生が保育者になるために授業に積極的に参加し、現場で安心して使うことができるアセスメントを作成していきたい。

引用文献

伊澤 孝・田上不二夫　2012　対人関係ゲームによる学級の人間関係づくり(49)-学校生活充実感テストを活用したスタッフ会議-日本カウンセリング学会第 45 回大会論文集,173

岸田優代　2000　集団不適応児童に対する対人関係プログラムの適応　日本カウンセリング学会第 33 回大会発表論文集,342-343

木曽陽子　2012　特別な支援が必要な子どもの保育における保育士の困り感の変容プロセス　保育学研究,　50, 2, 26-38

國分康孝　1992　構成的グループエンカウンター　誠信書房,東京.

工藤ゆかり　2016　幼児の遊びの充実と保育者の援助　帯広大谷短期大学紀要, 53, 19-26

文部科学省　2008　幼稚園教育要領解説　フレーベル館,東京.

守 秀子・島田左一郎・天田広一・倉科深陽・下平正恵・石坂由美子・戸谷直喜　2011　教育実習・保育実習における学生の自己評価の分析　文化学園長野専門学校紀要,3,3-16

森　大実　2013　教育実習における実習報告の分析-実習事前指導の充実をはかるための一考察-　文化学園長野専門学校紀要,5,3-16

中　俊博・小西光子　1994　就学前児のゲーム遊びに関する事例的研究　和歌山大学教育学部教育指導センター紀要, 3, 75-84

大澤靖彦・田上不二夫　2015　対人関係ゲームの動向と展望　東京福祉大学・大学院紀要,6,1,87-107

酒井 希・田上不二夫　2008　対人関係ゲームによる学級の人間関係づくり(26)-広汎性発達障害児のいる学級での「くまがり」の実践-日本カウンセリング学会第 41 回大会論文集,170

田上不二夫　2010　実践グループカウンセリング―子どもが育ちあう学級集団づくり,金子書房,東京.

田上不二夫・伊澤 孝　2015　学級の仲間づくりに活かせるグループカウンセリング　金子書房,136-146

田上不二夫　2017　不登校の子どもへのつながりあう登校支援　金子書房　99-117

塚田右子　2014　教育実習を通した学生の成長-1 年次と 2 年次の実習報告における比較分析-　文化学園長野専門学校紀要,6,49-62

富山県総合教育センター教育相談部　2017 学級担任用支援ツール（CD）

山本淳子・田上不二夫　2005　対人関係ゲームによる学級の人間関係づくり(6)
-対人関係ゲーム体験尺度の作成-日本カウンセリング学会　第 38 回大会発表論文集
201-202

付記

本研究にあたり、協力いただきました学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

保育科学生による紙芝居の制作計画

小池　悟

Creating Picture-Story Board Sets for the Special Support Classes of Mothers and Children with Developmental Difficulties: Why We Need It and How We Plan to Make Them

KOIKE,　Satoru

キーワード：保育内容　造形表現　創作紙芝居　共同制作

１　はじめに

1）保育と紙芝居

紙芝居は松田（2014）によれば、昭和初期に日本で考案され、現在は幼稚園・保育園・小学校等で教材として活用されている。一度に大勢の子どもたちに読み聞かせをするのに向いており、子どもたちの年齢や興味関心に応じた様々なテーマの物語の紙芝居が市販されており、子どもたちの発育を促す有用な教材となっている。

保育における紙芝居に関しては、鬢櫛・種市（2006）が、「紙芝居の現在のスタイルが成立（1930 年）して間もなく、保育界の重鎮たちによって保育の中に取り入れられ、教材・教具として活用されるようになった」ことを明らかにしている。そして鬢櫛らは、「戦後は、学校教育から紙芝居が締め出されたのとは対照的に、保育内容にもとづく保育教材・教具として制度的に位置づけられ、現在も日々の保育に欠かせない教材・教具として活用されている」と述べた。さらに、鬢櫛らは保育現場における紙芝居の活用状況についても調査を進め、多くの園で紙芝居が活用されているが、絵本と比較すると活用が少ないこと、経験年数の長い保育者の方が、紙芝居の特性を活かして効果的に活用していること、紙芝居を自作したり子どもたちに紙芝居を作らせたりした経験を持つ保育者が少ないことなどを明らかにした（鬢櫛・野崎，2010 ； 小島・鬢櫛・高瀬，2013）。

上述してきたように、保育の場における紙芝居の研究を長年にわたり精力的におこなってきた鬢櫛は、紙芝居の役割を高く評価し、「紙芝居が演じられる空間では、聞き手には集団的な共感がもたらされ、聞き手と演じ手との間には双方向的なコミュニケーションが生

まれる」として、様々な児童文化財の中にあって、教育メディアとして優れた特質を備えていると述べている（鬢櫛・種市，2005)。そして、近年では保育における手作り紙芝居を推し進める研究をおこなっている（鬢櫛・野崎・児島，2012　；　鬢櫛・岡野，2014)。

筆者も、鬢櫛同様、紙芝居は優れた教育メディアであると考えている。未だ言語による理解が充分でない幼児期において、紙芝居は具体的なイメージが提示されるため、その内容の理解が容易になるであろうし、また、同じ視覚教材であっても、VTR のような一方向からの伝達ではなく双方向のやり取りがなされることで、子どもたちの興味や関心が高まることも推測される。さらに、鬢櫛も述べているように、空間を共有する聞き手の子どもたちにも集団的な共感が生じることが、教育効果につながるという期待も持てる。

上述のとおり、紙芝居は保育現場において様々な効果が期待される。それと同時に、保育者養成課程の授業において、「紙芝居の制作」をおこなうことにより、学生にも多くの力をつけることができると考えられる。具体的には、①ストーリーを考え、②イメージを膨らませ、③絵に表現する工程を通して表現する楽しさを味わうものであり、材料の知識やその取扱い方法・制作の技術を習得する機会となる。そして、完成した作品は、実演などに活用可能な教材であり、保育者を目指す学生にとってたいへん有意義な学習であると考えられる。

2）A 市における発達支援教室

A 市が管轄する育児支援の一つとして「あそびの教室」がある。定期的な乳幼児健康診査等の結果、精神運動発達、言語発達、社会性コミュニケーションの発達、及び親子関係において何らかの心配がある就園前の幼児に対し、その健やかな発達を促すため、また保護者には児の特性を理解し、児の特性に合ったかかわり方を学ぶことを目的としたものである。

当該教室の運営スタッフは、保健師１～２名、保育士２名、発達相談員２名とし、必要に応じて専門スタッフの協力・助言を得ながら行われている。

3）教室と紙芝居

当該教室の活動内容の一つとして「紙芝居」の読み聞かせがほぼ毎回行われ、子どもたちはそれを楽しみにしている。

10 人前後の幼児が対象だが、市販の紙芝居や絵本ではサイズや絵柄が小さく、内容的にもよりシンプルなものが良いとの判断から、以前より担当する保育士が手作りで作成した大判の紙芝居を長年使用してきている。それらは、市販の絵本を参考にして作成したもので、大判紙芝居として十数種類のものがある。以下に、参考にした絵本を一覧にして示す（表 1)。

表 1. 現在使用中の紙芝居の作成にあたって参考にした絵本

題　名	作者名	出版社名	発行年月
いないいないばあ	木村裕一	偕成社	1989 年 2 月
いいおへんじできるかな	木村裕一	偕成社	2005 年 2 月
いただきまーすあそび	木村裕一	偕成社	2004 年 8 月
ノンタン　もぐもぐもぐ	キヨノサチコ	偕成社	1987 年 8 月
ひとりでうんち　できるかな	木村裕一	偕成社	2004 年 8 月
ぞうくんのさんぽ	なかのひろたか	福音館書店	1977 年 4 月
おふろで　どっぷーん	あまんきみこ作 上野紀子絵	ポプラ社	1984 年 8 月
ノンタン　サンタクロースだよ	キヨノサチコ	偕成社	1978 年 11 月
ノンタン　はくしょん	キヨノサチコ	偕成社	1989 年 12 月
ふうせんねこ	せなけいこ	福音館書店	1972 年 12 月
ぴかぴかおてて	わらべきみか	ひさかたﾁｬｲﾙﾄﾞ出版社	1987 年 12 月
ゆめ　にこにこ	柳原良平	こぐま社	1998 年 3 月

3　問題提起

長年大切に扱われ、当該教室にはなくてはならないものとなっている大判紙芝居だが、経年による老朽化や内容の一部に古さが感じられる等の問題が浮上してきた。そこで、本研究では「造形表現」「図画工作」などの授業内で、「創作紙芝居」の制作を計画し、従来のものに代わる新たな作品の制作をおこなうこととした。

完成した創作紙芝居作品は、A 市へ寄贈する予定である。

4　創作紙芝居の制作について

創作紙芝居制作にあたり参考とする作品例は、前掲した表 1 に示される、現在使用中の紙芝居である。また、作品に当該教室活動を担当する保育士からの要望を反映させるために、アンケートを実施した。その結果を表 2 として以下に示す。これらを制作上の要点として学生に提示し留意点とする。

表 2. 紙芝居作成に関する保育士からの要望

(1) 大きさについて	・あまり小さいと広い部屋で見えづらいため、現状のサイズでお願いしたい。
(2) 絵について	・抽象的でなくはっきりとした絵 ・大きめの図柄 ・シンプル ・動物など、分かりやすいもの
(3) ストーリーについて	・あまりストーリー性がないもの （難しい物語は、年齢的にも理解できない） ・基本的生活習慣的な内容 （挨拶・生活習慣・遊び・食事など、子どもの身の周りのものに関連したもの） ・次の場面の予測と期待が出来る内容 ・繰り返しがあるもの ・拍手など真似ができる箇所があるもの
(4) 台詞・言葉について	・単調な台詞回し ・繰り返し ・親子で一緒に言える簡単なもの
(5) その他	・仕掛けがある紙芝居 ・紙質は、厚紙などの丈夫なもの。 ・色落ちや汚れ防止のためにニス塗仕上げにする。 ・子どもが知っている動物・食べ物・乗り物がいい。

５　創作紙芝居の制作実施計画

制作実施にあたり、松田（2014）を参考に筆者の過去の実践を基にして以下のように計画を立てた。

(1) 実践講座

本校保育科　２年生　３４名

(2) 実践のねらい

対象幼児の理解と使用目的に配意した紙芝居制作を通して、物語を考えイメージを膨らませ作品制作することにより、表現する楽しさを味わう。

(3) 実践の流れ

紙芝居の基本構造を理解し、物語のテーマや目的よって様々な形式や種類があることを知る。

また、今回制作する紙芝居の実施対象となるあそびの教室の利用幼児について理解を深め、制作上の要望(表 2)を反映して制作することを確認し、制作全体の手順を理解する。

制作の手順

① グループ制作とし、４名から５名を１グループとした８グループで行う。

② テーマを、生活習慣関連の 1)挨拶 2)返事 3)食事 4)歯磨き 5)トイレ 6)手洗い、知識関連の 7)乗り物 8)動物、の８種類とし、グループ毎に分担を決める。

③ グループ毎、テーマに沿ってお話をつくる。
登場人物・場所・時間等の設定を確認しながらテーマに沿ったお話を膨らませていく。

④ 場面設定は８場面とし、お話を場面割りして箱文とし、それに対応する箱絵をラフスケッチとして表す。

⑤ 制作上の要望(表 2)が十分に反映された内容となっているか確認しながら制作を進める。

⑥ 箱文と箱絵ができたら、大判厚紙用紙に絵を描く。丁寧に下描きをしてからアクリル絵の具で着色する。仕上げに保護用の水性ニスを塗る。

⑦ 箱文をパソコンで適切な大きさに印字して、絵の裏側に接着して完成する。

(4) 制作

時間 (90 分)	学習内容	指導上の留意点
1	紙芝居の基本的な構造の理解と様々な形式や種類を知る。 完成後の利用目的と対象となるあそびの教室について理解を深める。 制作全体の手順を理解する。	・市販の紙芝居を参考例として解説し、その特徴や機能を紹介する。 ・あそびの教室での「紙芝居」の活用状況をスライドショーで紹介する。 ・グループ分けをし、制作手順を説明する。
1	創作紙芝居の担当テーマをグループ毎に決めて、テーマに沿ったお話を自由に発想しイメージを膨らませる。 今回の紙芝居の形式に合うよう、8 場面の箱文と箱絵について検討を進める。	･8 場面用の箱文･箱絵記入用紙(A4)を配布し、自由に記入させながらイメージの明確化を促す。 ・制作上の要望(表 2)を反映した内容となっているか確認し、必要に応じて助言する。

1	箱文と箱絵をまとめ、箱絵を基に大判厚紙用紙に絵の下絵描きをする。 下絵ができたものから、アクリル絵の具による着色を行う。 8場面分について丁寧に制作する。	・大判厚紙用紙を用意しグループ毎に8枚を配布する。 ・構図や大きさについて確認をしながら下絵描きに取り組ませる。 ・アクリル絵の具での着色に当たっては、配色計画や着色イメージについて確認し、必要に応じて助言する。
1	箱文と箱絵をまとめ、箱絵を基に大判厚紙用紙に絵の下絵描きをする。 下絵ができたものから、アクリル絵の具による着色を行う。 8場面分について丁寧に制作する。	・構図や大きさについて確認をしながら下絵描きに取り組ませる。 ・アクリル絵の具での着色に当たっては、配色計画や着色イメージについて確認し、必要に応じて助言する。
1	パソコンで印字した箱文を裏面に接着する。 仕上がった画面の保護のため、水性ニスを塗る。	・印字箱文の接着では、順番や上下について十分確認させてから行わせる。 ・保護用ニスを用意し、適切な塗布方法を理解させてから行わせる。 ・ニスを塗布した作品は重ねず、乾燥棚で十分に乾燥させる。

(5) 実演発表

グループ毎に実演練習を行い、お互いに発表をする。

６．今後に向けて

以上が、創作紙芝居の制作計画である。完成した作品の紹介および本研究の進捗に伴う報告については、追っておこなうものとする。

引用文献

鬢櫛久美子・種市淳子　(2005)　保育におけるメディアとしての紙芝居－紙芝居通史を中心に－　名古屋柳城短期大学研究紀要　27,　53-67

鬢櫛久美子・種市淳子　(2006)　保育のなかの紙芝居－倉橋惣三と「紙芝居」の関わりを

中心にー　名古屋柳城短期大学研究紀要　28,　95-105
鬢櫛久美子・野崎真琴　(2010)　保育現場における紙芝居の活用状況　名古屋柳城短期大学研究紀要　32,　65-75
鬢櫛久美子・野崎真琴・小島千恵子　(2012)　手作り紙芝居の可能性ーキッズ紙芝居コンテストの取り組みを通してー　名古屋柳城短期大学研究紀要　34,　77-86
小島千恵子・鬢櫛久美子・髙瀬慎二　(2013)　紙芝居に関する保育者の意識と活用状況ー保育者の保育経験年数との関係からー　名古屋柳城短期大学研究紀要　35,　183-193
鬢櫛久美子・岡野尚子　(2014)　保育における手作り紙芝居ー指導方法を探るー　名古屋柳城短期大学研究紀要　36,　19-27
松田ほなみ　(2014)　幼児造形の研究　編著 辻泰秀　萌文書林　186-187

音楽会の練習を楽しく行うための
指導者向けガイドブック作りの試行

小山田　広

A Teachers' Manual for Guiding Children to
Enjoy Practicing for the School Concert

OYAMADA, Hiroshi

キーワード：音楽会の練習　練習を楽しく　充実感や満足感　音楽嫌いをなくす

１　はじめに

子ども達は小学生に限らず，音楽が好きであり，音楽を楽しむ術（すべ）をいくつも持っている。それが，時として「音楽は嫌い。」，「学校の音楽は嫌い。」と言う言葉が子ども達からも大人からも聞かれることがある。小・中学校で音楽教育に深く関係していたものからすると，とても残念であり，耳の痛い話である。

一方，幼稚園・保育園・認定こども園でも小中学校でも朝の会から帰りの会まで，元気で明るい歌声が聞こえるクラスからは，笑い声が絶えず，まとまりも良いとの話を良く耳にする。また，筆者も担任をしていた時に，このようなことを自他問わず数多く体感した。「音楽は嫌い。」「音楽は苦手。」の発端を聞いてみると，音楽会や音楽会の練習，音楽の授業の時が多く聞かれた。自分自身の反省も含めつつ，「音楽好きな子を増やしたい。」「音楽会や音楽会の練習で音楽嫌いを絶対に作らない。」は音楽教育に携わったものの悲願だと言っても過言ではない。

上記のような思いから，私が小学校教員をしていた時の体験を元にしながら，「音楽会の練習を楽しく」というガイドブックを作成し，改良を加え研修会等で使用してきた。そこで，以下では，本ガイドブックの作成の経過や概要，成果などについて紹介する。

２　研究の経過（ガイドブック（資料「音楽会の練習を楽しく」）作成の経過）

かつて，音楽の係をしていて，音楽会が近づくと，よく担任の先生方から「リズム楽器とメロディーが合わなくて困る。」「何か違和感を持つが，この発声で良いのか？」「木琴のバチや音色はどのようにしたらよいのか？」「指揮のやり方が分からないし，自信が持てない。」等，いろいろな分野から（器楽・歌唱・創作・鑑賞等，指揮，クラシックからポップスまで）様々な質問や悩みが寄せられる。その都度，ていねいに答えて来たつも

りではいるが，なかなか答え切れないことが多々あった。また，実際の子ども達に会って，実際の音を聞いて，いろいろな方法を試してみる。そんなことができないこともあり，相談された先生の真意を理解できない時もあった。そこで，担任の先生のための（音楽指導を苦手としたり，経験の浅い先生のための）音楽会用の指導資料（ガイドブック（資料「音楽会の練習を楽しく」））を作り始めてみた。

音楽の教科書に載っていることを中心に，ごく基本的なことや質問されたことを中心に掲載を考えてみた。また，研修会等に呼ばれるたびに配布し，先生方から感想を聞きながら，改良を加えてきた。改良の視点として「できるだけわかりやすく（単純明確に）」「基本を大切に」「子どもの姿や反応を大切に（より自然に）」である。

教頭や校長になってからも，音楽会の事前研修等で活用してもらったり，講師で他の学校に呼ばれた折りに紹介させてもらったりしている。短時間なので，あれもこれもという訳にいかず，そんな時，「後でこの資料をお読み下さい。」と言いながら渡して来ている。今後，さらに使いやすくなるよう改良を加えていきたいと考えている。

「音楽は苦手なので音楽会の指揮はできれば代わってほしい。」「楽譜通りに演奏はできたように思うが，心が入っていないように思う。」等，担任の先生方から切実な悩みや困り感を聞かせてもらうことがある。そんな先生方にちょっと見て，ちょっと読んだだけで，悩みの解決に繋がる資料があればと思うようになった。

子ども達は本来，音楽好きである。その子ども達がいつの間にか失敗を恐れ，自由な表現を嫌い，緊張感の強い眼差しで先生を見つめる姿勢に変わって行ってしまう場面が見られる。その場その時の先生の一言や支援の方法によって，音楽会の練習で『みんなで作品を作り上げていく醍醐味』や『子ども達が自分の成長していく手応えを感じていける絶好のチャンス』にして行ってほしいと願っている。また，先生方には音楽会の練習，本番，見返しの活動を通して学級作りの醍醐味や手応えの実感を重ね，さらに他の行事や活動でも子ども達と共に感動を味わいながら学級を作り上げていってほしいと願っている。

３　研究内容

歌唱・器楽・指揮・鑑賞の４つの分野を中心にすえ，その他として質問が多かったものに答える形で資料を作成してきた。資料１「音楽会の練習を楽しく」と資料２「自然で豊かな発声のために」を文末に資料として添付した。以後，改良してきた点や大事にしてきている点について実際の資料に解説を加えながら説明したい。

◇目次があった方がわかりやすいとの指摘を受け，目次や私の願いをそこに記述した。

◇はじめに「楽しみ方」として，子どもの成長と音楽会の練習に関する願いをあまり負担にならない程度の表現で以下のように記述した。

・子どもたちの成長との出会いを楽しめる先生であってほしい。

・音楽会の練習を学級経営の大切な１ページとしてとらえ大いに楽しんでほしい。

◇ＰＣの音楽ソフトを使い，器楽合奏の指揮の練習をし，指揮の苦手意識を克服した若い先生がいた。その話のきっかけとして記載している（時間があるところでは紹介したこともある）。

資料「音楽会の練習を楽しく」

さあ、音楽会の練習です。
（ステージ練習が始まります。）

子どもたちより先に、先生自身が音楽会の練習を楽しみましょう。

参考になる部分があったらご活用下さい。

1　歌について

2　器楽合奏について

3　指揮について

4　鑑賞について

5　その他
・並び方　・思いの醸成　・音程が自己流になりがちな子　など

楽　し　み　方

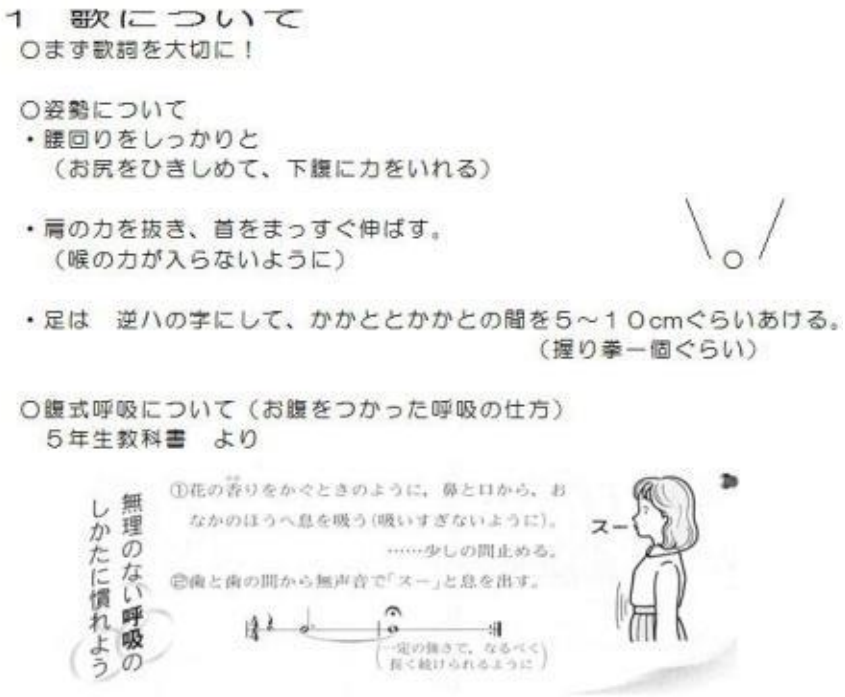
◇子どもたちの素敵な姿との出会いやその子なりの成長を楽しむ
◇みんなで作り上げる醍醐味・良さを味わう。

○子どもたちとの音楽作りを楽しむ。
・子どもたちと音楽との出会いの工夫
・表現の工夫
音色・強弱・緩急・曲の山・聞かせどころ　等
・練習の工夫
・ねがいやねらいの醸成
○楽曲そのものを楽しむ。
・教材研究として、いろいろな演奏を聴く。
○技能を楽しむ。
・教材研究として楽器を演奏してみる。
・演奏を創造しながら範唱・範奏CDにあわせ指揮を楽しむ。（PCソフトにあわせて）
○その他

（1）歌唱について

◇姿勢についての説明と呼吸や響きのあて方について図による説明を中心に記述してある。かつて，「姿勢」「共鳴」「呼吸法」「口のあけ方」「発音」「発声練習」と分類し，ていねいに説明&解説したこともあったが，「ありがたい資料だけど，音楽の専門の先生以外はあまり使えない・・・。」と正直な感想をいただき，大幅に削減してみた。こちらの方が「シンプルでわかりやすい。」との感想もいただいたが，「これだけだとかなり少なく，大事なことが省略されている。」との指摘もいただいた。

◇腹式呼吸や響かせ方の意識については，他の方法もあるが，実際に子ども達の反応を見ながら，指導・支援をした方が効果的な場合がある。



２ 器楽合奏について

○メロディーと伴奏の区別＆生かし方！

○メロディオンについて
注意点（1） 強く吹き過ぎないこと
注意点（2） できたらマウスピースで
注意点（3） タンギングを上手に（リコーダーの部分を参照）

○アコーディオンについて
注意点（1） はじめは、右手の練習より左手の練習を多くさせるつもりで
注意点（2） なれてきたら、鍵盤をみないように・・・

○リコーダーについて
注意点（1） 強く吹き過ぎないこと
注意点（2） タンギングについて すべてTUではありません。
低い音・・・DU（OR RU）<ドゥ・ル>
中間部の音・・・TU <トゥ>
高い音・・・TI（TU） <ティ・トゥ>
注意点（3） 運指を正確に
（音の狂いの原因が運指だったりします。）

○打楽器について
木琴・鉄琴・小太鼓・大太鼓・ティンパニー 等
注意点（1） ますたたいてみて音色を決めましょう。
・たたく場所
・たたき方
・強さ
・スティックの種類
などによってみんな音色が変化します。

注意点（2） スティックの持ち方
○人差し指と親指でにぎり、他の指は軽く添えられるようにしましょう。
○スナップ等をきかせ、決して打つ面で止めないようにしましょう。

注意点（3） 木琴・鉄琴等のバチ(マレット)について

○バチの種類１（頭の部分の材質）
ゴム（樹脂）< 糸巻き < 毛糸巻き
（耐久性＝弱い < 強い）
（値 段＝安い < 高価）
○バチの種類２（硬さ）
それぞれに 硬い・中程度・柔らかい
とあります。
必要な音色に合わせて選ぶと良いと思います。

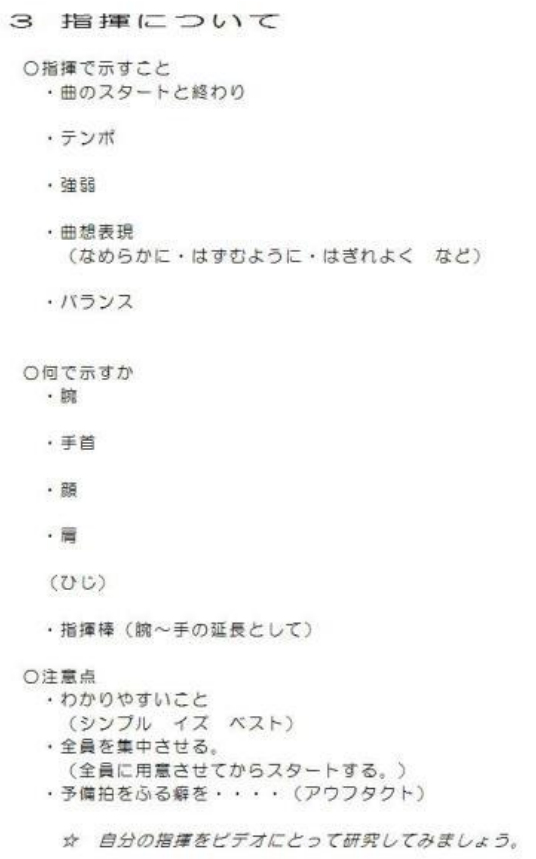
☆硬質のゴム（樹脂）製のバチで木琴をたたくと木琴の表面に傷が付き音色が悪くなります。
→糸巻き か 毛糸巻きの硬質のものならOK

○枝について
プラスティックのものより木製のもののほうが弾力性がある。
（木製の枝のほうが高価です。）

（２）器楽合奏について

◇鍵盤ハーモニカやリコーダー等の基本的な奏法の注意点を記述した。また，よく質問があった，打楽器の演奏法やスティックの持ち方等基本的なものを掲載した。スティックの握り方だけで１０～１５分過ぎてしまうこともあった。

◇電子楽器やラテン楽器について時々質問されるが実物を演奏しながら説明したほうがわかりやすいので記述は省略した。


3　指揮について

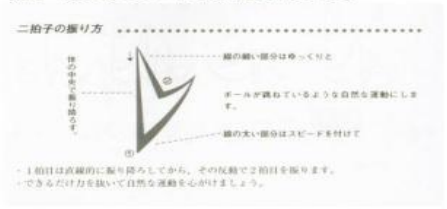
○指揮で示すこと
・曲のスタートと終わり
・テンポ
・強弱
・曲想表現
（なめらかに・はずむように・はぎれよく　など）
・バランス

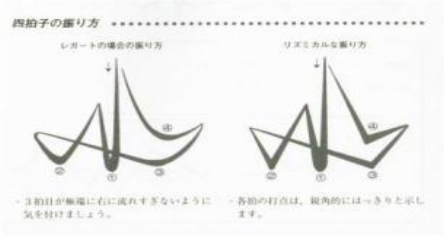
○何で示すか
・腕
・手首
・顔
・肩
（ひじ）
・指揮棒（腕～手の延長として）

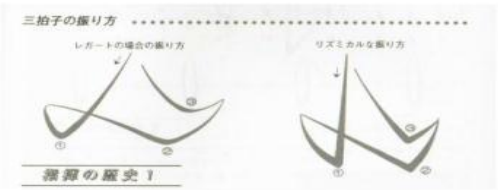
○注意点
・わかりやすいこと
（シンプル　イズ　ベスト）
・全員を集中させる。
（全員に用意させてからスタートする。）
・予備拍をふる癖を・・・・（アウフタクト）

☆　自分の指揮をビデオにとって研究してみましょう。

○図形について　（指揮の図形はいろいろあります。）
以下一例です。
渡辺　暁雄先生の「やさしい指揮法」より


二拍子の振り方


四拍子の振り方


三拍子の振り方

指揮の歴史 1

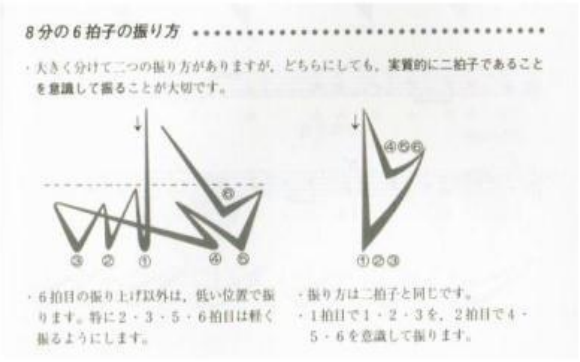
（３）指揮について

◇指揮についてごく基本的なものとして，指揮で示すもの（表現するもの），何で示すか，注意点の三つと拍子の図形について記述した。

◇合奏と歌唱とは振り方を変えた方が良いという先生もいるものの，合奏にも歌唱にも適用できるごく基本的なものを記述した。実際に演奏する曲を楽譜を見ながら，楽曲分析をしつつ，振り方の工夫を研究した方が効果的である。その楽曲にあった振り方，同じ楽曲でも子ども達が変われば必然的に振り方も変わる。当然，それなりの振り方の練習をする時間の保障が必要になってくる。１クラス２０～３０分では伝えきれない場合の方が多い。

◇図形についてはいろいろな説があるが，子ども達にもわかりやすくシンプルという観点でこの図形とした。

◇よく四拍子の三拍目や三拍子の二拍目を横に表記する図形があるが，決して間違いではないが，演奏する側から見ると三拍目（二拍目）が長すぎるように感じ，三拍目（二拍目）や四拍目（三拍目）の頭がわかりにくく感じられる。また，小学生には見えにくいようにも思われる。そこで，三拍目（二拍目）もポイント（打点）のはっきりした図形を伝えるようにしている。


8分の6拍子の振り方

・大きく分けて二つの振り方がありますが，どちらにしても，実質的に二拍子であることを意識して振ることが大切です。

・6拍目の振り上げ以外は，低い位置で振ります。特に2・3・5・6拍目は軽く振るようにします。

・振り方は二拍子と同じです。
・1拍目で1・2・3を，2拍目で4・5・6を意識して振ります。

（4）鑑賞について

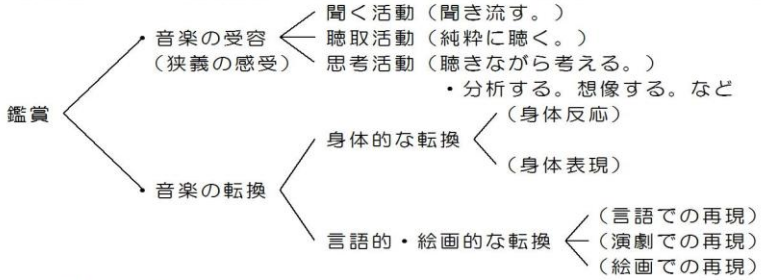
◇「よく『聴き上手は演奏上手』と言われるが，具体的にどんな指導があるのか。」との質問（ご指摘）を受け作成してみたものである。

4 鑑賞について（聴き方について）

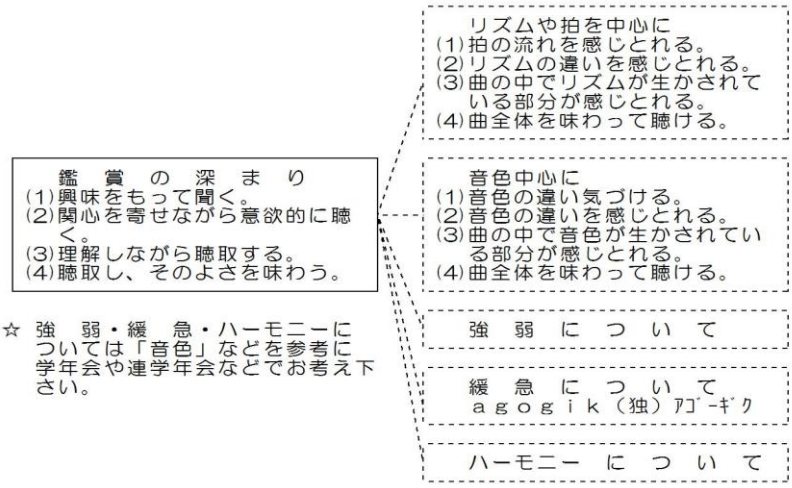
○演奏は静かに聴く。
○トイレに行く時は、交代の時にする。出たときに演奏が始まっていたら、演奏が終わるまでトイレの扉の前で待っている。
（このくらい音楽を大切に思える心情を培いたいですね。）
○拍手は心をこめてする。
□以下の資料を事前指導にお使い下さい。
（低学年にはもう少し分かりやすい方がいいと思います。）

ある演奏家の話から（留学中の事でしょうか。）
「ある国で、私が演奏会に行ったときの話です。
私の少し前の席に小さい子（3才ぐらい）をつれて聴きに来ていた。ご婦人が、第2楽章の終わりに、静かに後ろの方へ退席して行ったのです。その時は何も思わなかったのですが、後で、隣にいた友人から聞いた話ですが、
『たぶん小さい子が鼻水をすすっていたので、母親が退席したのではないか。』
とのことですが、私には、その子の鼻水をすする音さえ聞こえなかったようにおもいます。
この違いが、日本とヨーロッパとの生活に生きる音楽が育つ土壌の違いなのかと思い知らされた気がしました。

鑑賞指導についての理論です。
ちょっとややこしい論の展開です。（さらっとお読み下さい。）
1．学習領域からの鑑賞指導＜H．アントホルツの論に私見を加えたものです。＞



2．音楽鑑賞の段階
＜音楽科教育法概説の鑑賞指導の部分に私見を加えたものです。＞



○ただ、「静かに聞きなさい。」だけでなく、聞く観点や、聴き方の視点を子どもたちの実態に合わせて、提示していくと、上手に聞ける子（聴ける子）が増えていきます。

（5）その他

◇その他としてよく質問されたことを中心に記述した。

◇並び方について，あくまでも基本としてのもので子ども達と相談しながら，より自信をもって演奏できるものや演奏しやすいものを工夫していってほしいと願っている。

5　その他

○並び方について

小さい順に　→　小さい順に上手に並べて、みんなの顔が見えるように
実は、中央を小さい子にして両端を大きい子にすると
客席からもよく見えるようになります。

みんなが自信をもって　→　どうしても自信のない子はいます。その子が
自信をもって参加できるステージにするために

◇合唱の例
パートの境目（つられやすい場所に）やつられやすい子の
後ろや横に音程の良い子を配置する。

◇合奏の例
・リズムが乱れがちな子の横や後ろに打楽器を配置する。
・メロディーやリズムに不安がある子の斜め前や横に安定
感があって正確にできている子、できれば動きが大きい子
を配置する。

それこそ、これはみんなで考えあって工夫できるといいですね。

○良さを見つける。自信をつけて乗り越えさせ、手応えを感じ取らせる。
演奏は、タダでさえ緊張するもの、ミスを指摘されてそれを乗り越えていける子はごくごくわずかです。良さを見つけ自信を持たせ、それを伸ばすことの方が演奏が格段によくなっていきます。特に歌唱の場合。合奏の場合は、時によっては緊張感をもたせて練習することが必要な時もありますね。

○一人ひとりの願いの醸成（思い・願いとねらい）
子どもたちがもつ、楽曲や演奏に寄せる思いや願いをいかに引き出し、醸成していくか。そしてその願いと練習をいかに結びつけるか。これがまさに必要感のある練習、音楽会等の演奏の場の見通しや成功イメージと練習との融合　という言葉に表される大切な教師の仕事の一つだと思っています。
子どもたちの思い（想い）を受け止め、それを願いやねらいに醸成して、子どもたちとともに作り上げる音楽の素晴らしさを体験してほしいと願っています。

○よく聞かれる質問

●合唱について

◇発声が弱いように思うのですが、
・響きを工夫する。（響かせ方）
・胸声の部分を作って、その部分を音程を大切に練習し、頭声的に歌えている部分も残す。（たとえ弱い声でも）
・ブレスコントロールの工夫をする。息をたくさん吸っただけで大きくなることもあります。

◇きつすぎる声がある。
・のどの奥を明ける練習を繰り返す。
・きつい音（イ音・エ音？）の口の形の工夫。

◇音程が自己流になりやすい子について
・そばに音程が正確で、できれば思いやりのある子をおく。また、本人に劣等感を持たせないようにしつつ、個人練習の時間を増やし、音程が正確にとれていて自分も手応えを感じやすい部分を増やしていく。

◇声がかすれがちな子
・原因を探っていくと息をたくさん出し過ぎていることもあります。そんな時はブレスコントロールで直ります。また、声帯に異常ある場合には、状態によりますが、裏声の使い方の指導をするとかすれている部分が減ってくる場合もあります。普段の話し声もかすれている場合は、劣等感を持たせないようにしつつ、自信を持たせる個人指導も必要でしょう。（一流の歌手で森進一さんや桑田さんの話とか・・・。）

◇変声が始まっている子
・無理をさせないこと。もし裏声を使うことができるなら、裏声をたくさん活用する。よい発音について指導し、その良さを広めたい。

●合奏について

◇揃わない。
・打楽器を中心に練習する。聞き合う練習を取り入れる。

◇強弱の付け方
・曲の山の部分の工夫。指揮で少し前に表現する。
・人数や楽器の種類で強弱を工夫する手もあります。
・フォルテの前のピアノの表現　や　クレシェンドやディクレシェンドの表現方法でだいぶ強弱の感じ方が変わってきます。

（6）別冊「自然で豊かな発声のために」

発声を中心に指導を頼まれたり，合唱部の子達を中心に指導を頼まれたりした時に以下の資料を使用したり，資料として渡したりしてきた。専門的な話もあるので，ていねいに説明するようにしている。

自然で豊かな発声のために

４　ガイドブックについてのまとめ（成果と課題）

◇担任の先生方から，「少し自信がついたものの，まだ，ドキドキですが，頑張れそうです。」や「音楽の楽しさと奥深さを知りました。子ども達といっしょに良い思い出を作ります。」等の話を聞き，役に立てて良かった。と実感した。

◇資料「音楽会の練習を楽しく」（ガイドブック）は音楽会への心構えや指導の具体について，わかりやすい記述を心がけたつもりだが，後で質問を受けると不十分なところや余計な部分が見えてくる。さらに改良を加えながらより良いものにしていきたい。

◇合唱に関わる多様な質問を受けることが多いので，合唱指導や発声指導についての資料の作成をし始めている。また，指揮法についてもよく質問されるのでその資料も作り始めている。

５　おわりに

本年度より保育者養成校に勤務している。日々新たな驚きと出会いの連続である。と同

時に，長い間義務教育に勤めていて培ってきたことや蓄積してきたことで，養成校で利用できそうなことが少なからずあることに気づいた。その一つがこのガイドブックである。今までのものに改良を加え，幼稚園・保育園・認定こども園の先生方が活用できるもの，役立つものになるようにしていきたいと考えている。

幼稚園・保育園・認定こども園に学生の実習指導の訪問で伺わせていただいた時に，運動会の鼓笛隊の練習に何度か出会った。それこそいろいろな園でいろいろな方法で練習をしていた。プロを招聘して練習している園もあれば，担任や音楽の先生が必死の形相で指導しているところもあった。現場に出て，すぐに遭遇する指導場面としてこのような練習場面があると思われる。小学校のような音楽会はないものの，園によって小学校の音楽会に近い行事がある園，音楽会はないが，年度末に音楽発表会がある園等こちらもまちまちであるものの，クラスごとに音楽の発表場面は確実にある園が多い。

養成校の学生達は「音楽表現指導法」や「音楽」の学習でたくさんのことを学んできている。学生達に聞いてみると印象に残っているものは歌唱や手遊び、ピアノが中心なってしまうようだ。

時や場を見つけながら，器楽楽器や打楽器，和楽器（特に太鼓）の指導法，音楽発表会の歌唱の発表指導について等を中心にして，小学校のガイドブック（今まで作成してきたものをベース）に改良を加えつつ，幼稚園・保育園・認定こども園の先生用のものを学生の声を聞きながら作成していきたいと考えている。

音楽好きの子どもが増え，先生方が満足感や充実感を味わえるような音楽行事を，音楽行事の練習をめざして研究を進めて行きたいと考えている。

＜参考文献＞

ジーグフリート　フィンク　1987　「フィンク　打楽器奏法のすべて」　東亜音楽社
畑中　良輔　ほか８名　2002・2014　「小学校の音楽（１～6 年）」　教育芸術社
小原　光一　ほか５名　1982「音楽科教員養成課程用　音楽科教育法概説」音楽教育研究協会
下田　正幸　1991　「わかりやすい発声法」　音楽之友社
武田　雅博　2012　「おもしろ合唱事典」　音楽之友社
竹内　秀男　1988　「心にひびく合唱指導」　教育芸術社
渡辺　陸雄　1993　「やさしい指揮法」　教育芸術社

＜付記＞

このガイドブックの研究は，平成２８年度に教育公務員弘済会長野支部より助成金をいただきながら作成したものである。

※編集委員会から：本研究で紹介された資料は、別冊「音楽会の練習を楽しく」および「自然で豊かな発声のために」として本校ホームページ「研究紀要」からダウンロードしてご覧いただけます（http://bga.gakuen-nagano.ac.jp/guide/bulletin/）。

ISSN 2432-8189

資料（平成２９年度版）

音楽会の練習を楽しく

文化学園長野保育専門学校　小山田　広

さあ、音楽会の練習です。
（ステージ練習が始まります。）

子どもたちより先に、先生自身が音楽会の練習を楽しみましょう。

参考になる部分があったらご活用下さい。

１　歌について

２　器楽合奏について

３　指揮について

４　鑑賞について

５　その他

・並び方　・思いの醸成　・音程が自己流になりがちな子　など

楽　し　み　方

◇子どもたちの素敵な姿との出会いやその子なりの成長を楽しむ

◇みんなで作り上げる醍醐味・良さを味わう。

○子どもたちとの音楽作りを楽しむ。
- 子どもたちと音楽との出会いの工夫
- 表現の工夫
  音色・強弱・緩急・曲の山・聞かせどころ　等
- 練習の工夫
- ねがいやねらいの醸成

○楽曲そのものを楽しむ。
- 教材研究として、いろいろな演奏を聴く。

○技能を楽しむ。
- 教材研究として楽器を演奏してみる。
- 演奏を創造しながら範唱・範奏CDにあわせ指揮を楽しむ。（PCソフトにあわせて）

○その他

１　歌について

○まず歌詞を大切に！

○姿勢について

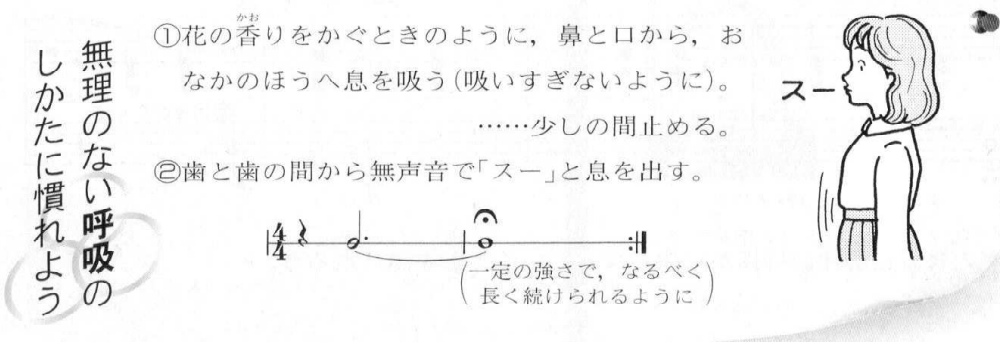
・腰回りをしっかりと
（お尻をひきしめて、下腹に力をいれる）

・肩の力を抜き、首をまっすぐ伸ばす。
（喉の力が入らないように）

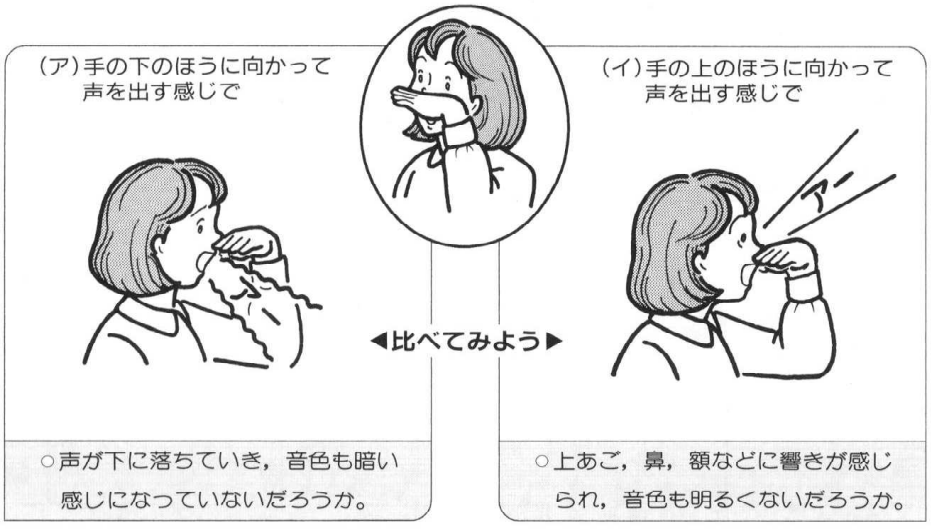
＼　○　／

・足は　逆ハの字にして、かかととかかとの間を５～１０cmぐらいあける。
（握り拳一個ぐらい）

○腹式呼吸について（お腹をつかった呼吸の仕方）
５年生教科書　より



○響きについて　（この響きの意識でだいぶ音色が変わります。）
５年生教科書　より



２　器楽合奏について

○メロディーと伴奏の区別＆生かし方！

○鍵盤ハーモニカ（メロディオン・ピアニカ）について

注意点（１）　強く吹き過ぎないこと
注意点（２）　できたらマウスピースで
注意点（３）　タンギングを上手に（リコーダーの部分を参照）

○アコーディオンについて

注意点（１）　はじめは、右手の練習より左手の練習を多くさせるつもりで
注意点（２）　なれてきたら、鍵盤をみないように・・・

○リコーダーについて

注意点（１）　強く吹き過ぎないこと
注意点（２）　タンギングについて　すべてＴＵではありません。
　　低い音・・・ＤＵ（OR ＲＵ）＜ドゥ・ル＞
　　中間部の音・・・ＴＵ　　＜トゥ＞
　　高い音・・・ＴＩ（ＴＵ）　＜ティ・トゥ＞
注意点（３）　運指を正確に
　　（音の狂いの原因が運指だったりします。）

○打楽器について

木琴・鉄琴・小太鼓・大太鼓・ティンパニー　等

注意点（１）　まずたたいてみて音色を決めましょう。
・たたく場所
・たたき方
・強さ
・スティックの種類
などによってみんな音色が変化します。

注意点（２）　スティックの持ち方
○人差し指と親指でにぎり、他の指は軽く添えられるようにしましょう。
○スナップ等をきかせ、決して打つ面で止めないようにしましょう。

注意点（３）　木琴・鉄琴等のバチ(マレット)について

〇バチの種類１（頭の部分の材質）
ゴム（樹脂）＜　糸巻き　＜　毛糸巻き
（耐久性＝弱い　＜　強い）
（値　段＝安い　＜　高価）
〇バチの種類２（硬さ）
それぞれに　硬い・中程度・柔らかい
とあります。
必要な音色に合わせて選ぶと良いと思います。

☆硬質のゴム（樹脂）製のバチで木琴をたたくと木琴の表面に傷が付き音色が悪くなります。
→糸巻き　か　毛糸巻きの硬質のものならOK

〇枝について
プラスティックのものより木製のもののほうが弾力性がある。
（木製の枝のほうが高価です。）

３　指揮について

〇指揮で示すこと
- 曲のスタートと終わり
- テンポ
- 強弱
- 曲想表現
  （なめらかに・はずむように・はぎれよく　など）
- バランス

〇何で示すか
- 腕
- 手首
- 顔
- 肩

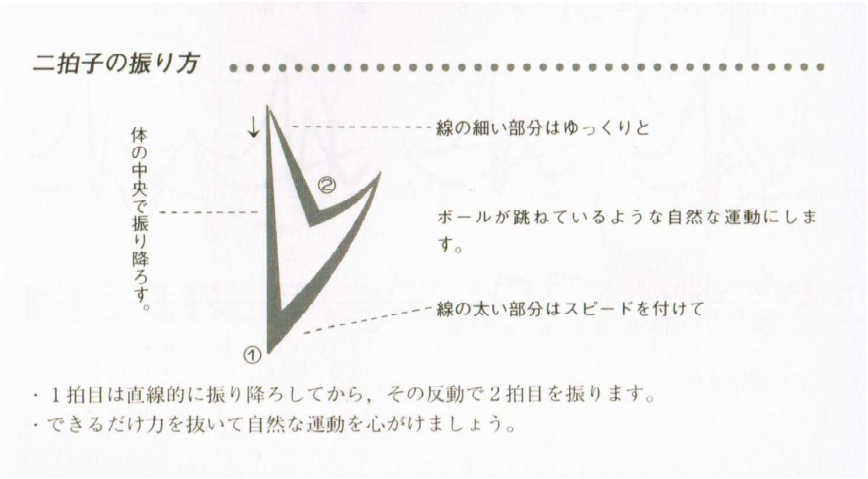
（ひじ）

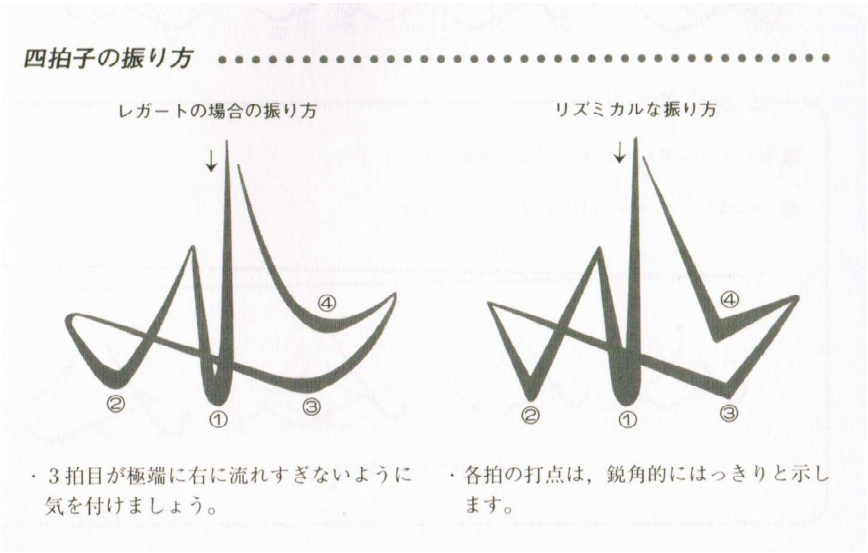
- 指揮棒（腕～手の延長として）

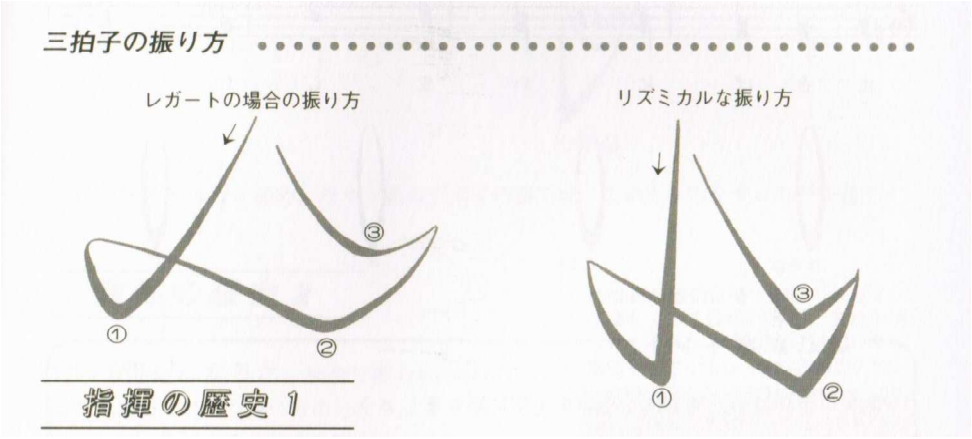
〇注意点
- わかりやすいこと
  （シンプル　イズ　ベスト）
- 全員を集中させる。
  （全員に用意させてからスタートする。）
- 予備拍をふる癖を・・・・（アウフタクト）

☆　*自分の指揮をビデオにとって研究してみましょう。*

〇図形について　（指揮の図形はいろいろあります。）
　以下一例です。
渡辺　陸雄先生の「やさしい指揮法」より

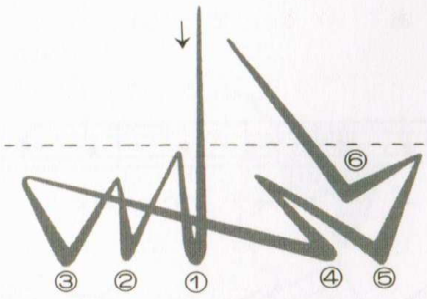




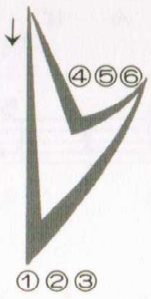


8分の6拍子の振り方

・大きく分けて二つの振り方がありますが，どちらにしても，実質的に二拍子であることを意識して振ることが大切です。



・6拍目の振り上げ以外は，低い位置で振ります。特に2・3・5・6拍目は軽く振るようにします。



・振り方は二拍子と同じです。
・1拍目で1・2・3を，2拍目で4・5・6を意識して振ります。

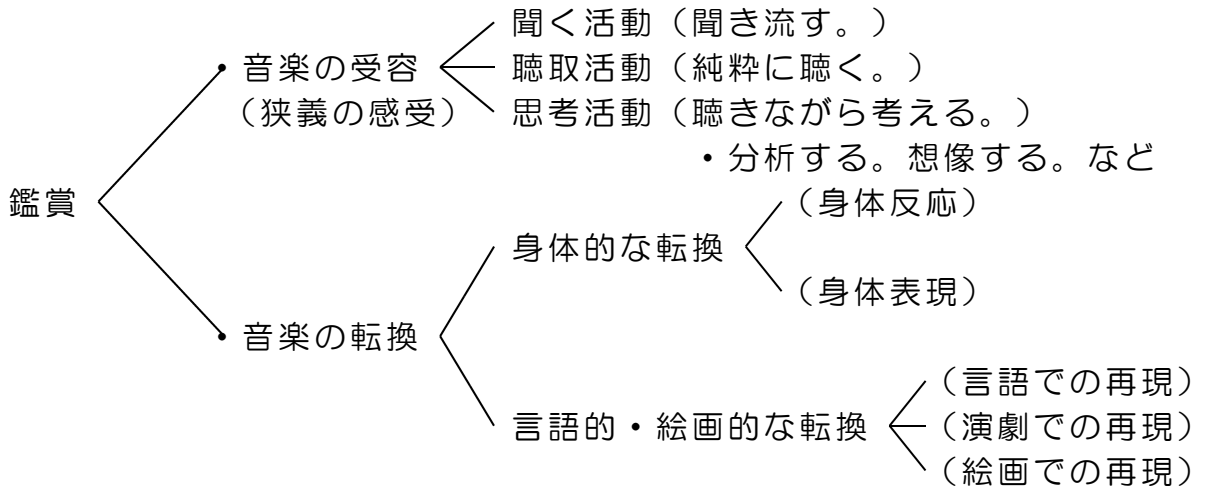
4　鑑賞について（聴き方について）

〇演奏は静かに聴く。
〇トイレに行く時は、交代の時にする。出たときに演奏が始まっていたら、演奏が終わるまでトイレの扉の前で待っている。
（このくらい音楽を大切に思える心情を培いたいですね。）
〇拍手は心をこめてする。
□以下の資料を事前指導にお使い下さい。
（低学年にはもう少し分かりやすい方がいいと思います。）

ある演奏家の話から（留学中の事でしょうか。）
「ある国で、私が演奏会に行ったときの話です。
私の少し前の席に小さい子（3才ぐらい）をつれて聴きに来ていた。ご婦人が、第2楽章の終わりに、静かに後ろの方へ退席して行ったのです。その時は何も思わなかったのですが、後で、隣にいた友人から聞いた話ですが、
『たぶん小さい子が鼻水をすすっていたので、母親が退席したのではないか。』
とのことですが、私には、その子の鼻水をすする音さえ聞こえなかったようにおもいます。
この違いが、日本とヨーロッパとの生活に生きる音楽が育つ土壌の違いなのかと思い知らされた気がしました。

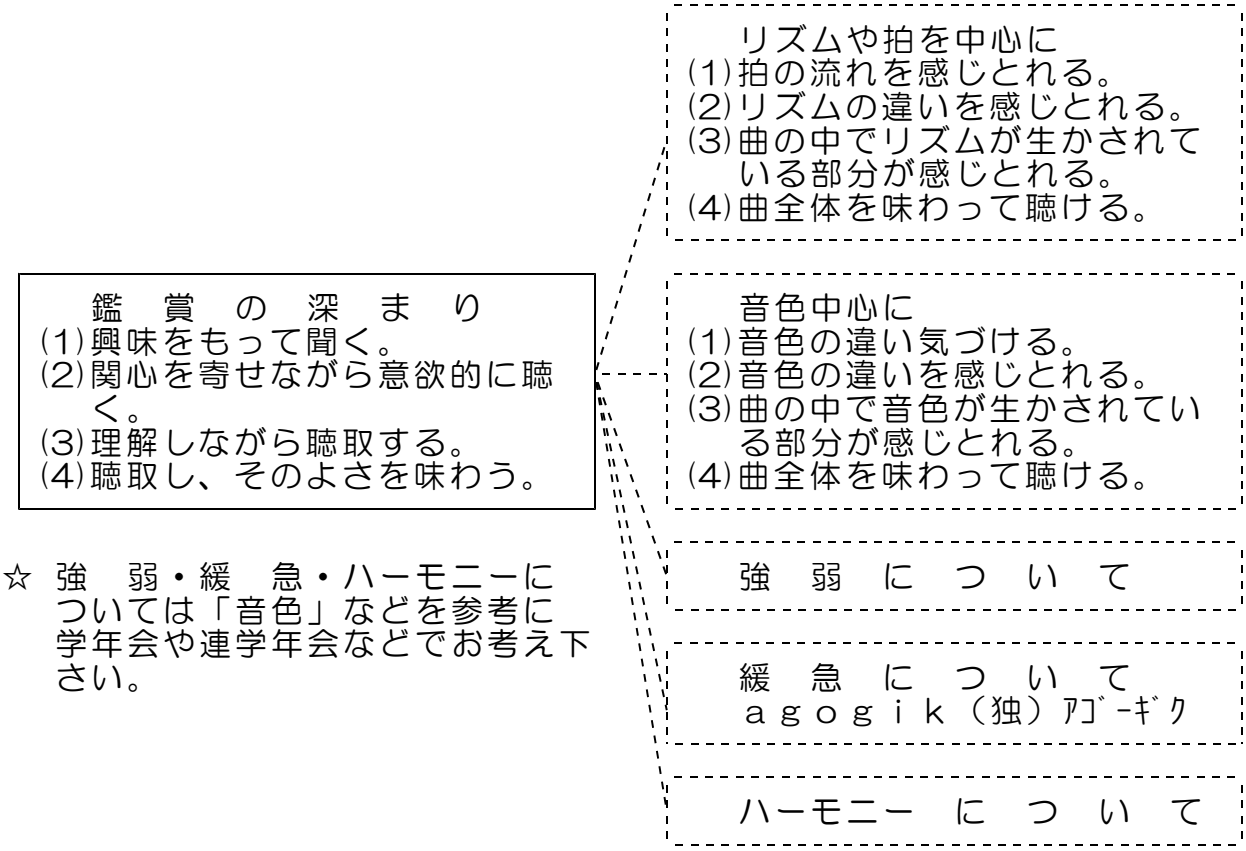
鑑賞指導についての理論です。
ちょっとややこしい論の展開です。（さらっとお読み下さい。）

１．学習領域からの鑑賞指導＜H．アントホルツの論に私見を加えたものです。＞



２．音楽鑑賞の段階

＜音楽科教育法概説の鑑賞指導の部分に私見を加えたものです。＞



☆ 強　弱・緩　急・ハーモニーについては「音色」などを参考に学年会や連学年会などでお考え下さい。

○ただ、「静かに聞きなさい。」だけでなく、聞く観点や、聴き方の視点を子どもたちの実態に合わせて、提示していくと、上手に聞ける子（聴ける子）が増えていきます。

５　その他

〇並び方について

小さい順に　→　小さい順に上手に並べて、みんなの顔が見えるように
実は、中央を小さい子にして両端を大きい子にすると客席からもよく見えるようになります。

みんなが自信をもって　→　どうしても自信のない子はいます。その子が自信をもって参加できるステージにするために

◇合唱の例
パートの境目（つられやすい場所に）やつられやすい子の後ろや横に音程の良い子を配置する。

◇合奏の例
・リズムが乱れがちな子の横や後ろに打楽器を配置する。
・メロディーやリズムに不安がある子の斜め前や横に安定感があって正確にできている子、できれば動きが大きい子を配置する。

それこそ、これはみんなで考えあって工夫できるといいですね。

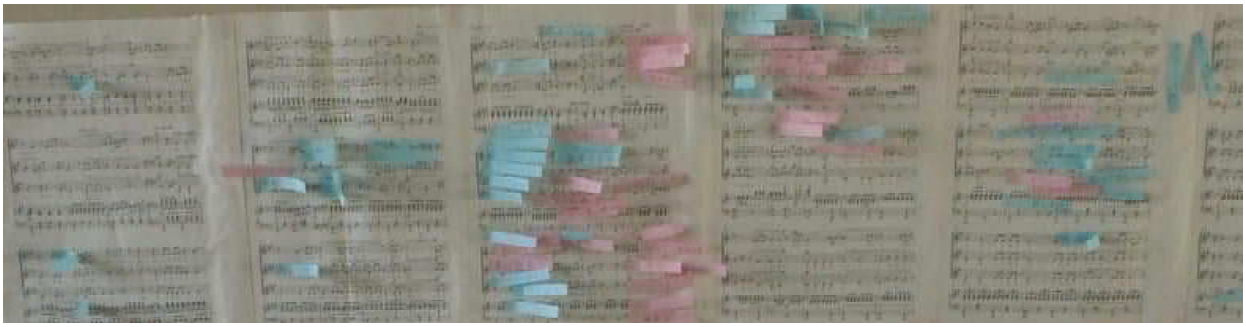
〇良さを見つける。自信をつけて乗り越えさせ、手応えを感じ取らせる。

演奏は、タダでさえ緊張するもの、ミスを指摘されてそれを乗り越えていける子はごくごくわずかです。良さを見つけ自信を持たせ、それを伸ばすことの方が演奏が格段によくなっていきます。特に歌唱の場合。合奏の場合は、時によっては緊張感をもたせて練習することが必要な時もありますね。

〇一人ひとりの願いの醸成（思い・願いとねらい）

子どもたちがもつ、楽曲や演奏に寄せる思いや願いをいかに引き出し、醸成していくか。そしてその願いと練習をいかに結びつけるか。これがまさに必要感のある練習、音楽会等の演奏の場の見通しや成功イメージと練習との融合　という言葉に表わされる大切な教師の仕事の一つだと思っています。

子どもたちの思い（想い）を受け止め、それを願いやねらいに醸成して、子どもたちとともに作り上げる音楽の素晴らしさを体験してほしいと願っています。



子ども達一人ひとりの思いや願い（めあて）を付箋に書き、それを大きな楽譜に張ったもの

○よく聞かれる質問

●合唱について

◇発声が弱いように思うのですが、

・響きを工夫する。（響かせ方）

・胸声の部分を作って、その部分を音程を大切に練習し、頭声的に歌えている部分も残す。（たとえ弱い声でも）

・ブレスコントロールの工夫をする。息をたくさん吸っただけで大きくなることもあります。

◇きつすぎる声がある。

・のどの奥を明ける練習を繰り返す。

・きつい音（イ音・エ音？）の口の形の工夫。

◇音程が自己流になりやすい子について

・そばに音程が正確で、できれば思いやりのある子をおく。また、本人に劣等感を持たせないようにしつつ、個人練習の時間を増やし、音程が正確にとれていて自分も手応えを感じやすい部分を増やしていく。

◇声がかすれがちな子

・原因を探っていくと息をたくさん出し過ぎていることもあります。そんな時はブレスコントロールで直ります。また、声帯に異常ある場合には、状態によりますが、裏声の使い方の指導をするとかすれている部分が減ってくる場合もあります。普段の話し声もかすれている場合は、劣等感を持たせないようにしつつ、自信を持たせる個人指導も必要でしょう。（一流の歌手で森進一さんや桑田さんの話とか・・・。）

◇変声が始まっている子

・無理をさせないこと。もし裏声を使うことができるなら、裏声をたくさん活用する。よい発音について指導し、その良さを広めたい。

●合奏について

◇揃わない。

・打楽器を中心に練習する。聞き合う練習を取り入れる。

◇強弱の付け方

・曲の山の部分の工夫。指揮で少し前に表現する。

・人数や楽器の種類で強弱を工夫する手もあります。

・フォルテの前のピアノの表現　や　クレシェンドやディクレシェンドの表現方法でだいぶ強弱の感じ方が変わってきます。

主な参考文献

「わかりやすい発声法」　下田　正幸著　　教科書　小学校の音楽（１～6年）教育芸術社編

「心にひびく合唱指導」　竹内　秀男著　　学生のための音楽事典　音楽の友社編

「やさしい指揮法」　渡辺　陸雄著　　音楽科教育法概説　音楽教育研究協会編

「打楽器奏法のすべて」　フィンク著　　他

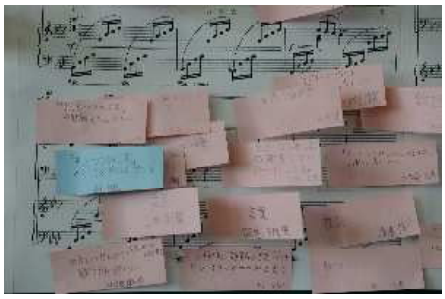
ISSN　2432-8189

自然で豊かな発声のために

平成２９年度版

文化学園長野保育専門学校　小山田　広

１　「まず、歌詞を大切に」　（日本語らしさの追究）
〇歌詞をよく読んで、作者の思いや願いを大切に



〇歌詞をよく読で、思いや願いの練り上げを

２　発声について
（１）思いや願い実現のために
　　どんな発声を目指すか？

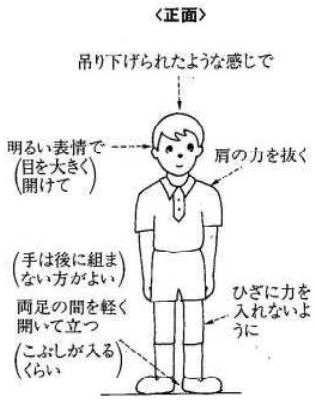
◇無理のない発声（声帯やのどを壊さない発声）
◇自然な発声（無理がなく伸びやかな発声）
◇豊かな表現ができる発声
　（豊かな響きのある自然な発声）

（２）*姿勢・呼吸・響き*　の三つを大切に

姿勢について　＜よりよい呼吸・よりよい響きのため＞
①両足を軽く開く。（左右、前後　等）
私は、「長く続けてやってみて疲れない姿勢」

☆両足を横に開く立ち方

☆両足を前後に開く立ち方



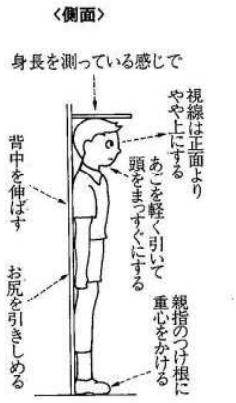
.

②重心は足の親指の付け根に置く。
（前後の場合は前の足の親指が基本）

③おしりを上げるように緊張させる。

④背筋を伸ばす。
（普段の生活と比べると、思った以上に頭が後ろへ）

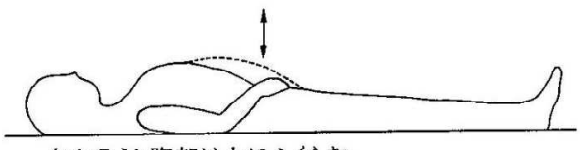
⑤胸を上に保って、肩の力を抜く。
⑥首に力を入れすぎない。
⑦頭をまっすぐにし、あごを軽く引く。
⑧目を大きく見開き、目線はやや上。



☆練習曲として
◇のどの奥を開ける。　楽しい発声のドリルＮｏ．１(あくびの歌)
◇のどの余計な力を取る。　楽しい発声のドリルＮｏ．３(ため息の歌)

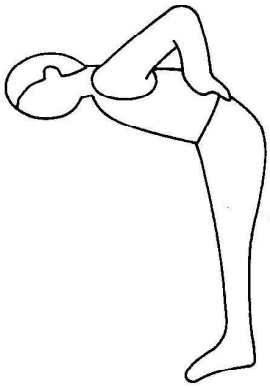
呼吸について　（自然な発声・よりよい響きのため）

〇発声に関する７０％～９０％の悩みは、
正しい呼吸法または正しい呼吸の練習法
を身につけることで解決する。
と話される音楽大学の先生がいます。

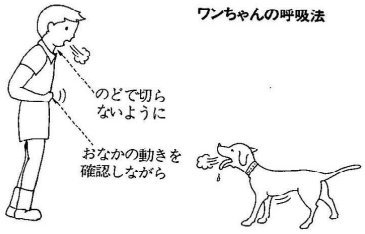


①　仰向けに寝て、お腹が上下する呼吸を
意識する。

② 立って上体を半分に折り、静かに息を吸い、
お腹から横腹、背中がふくらむのを確認する。
③ 上体を起こしながら、静かに息を吐く。お腹がへこむことを確認する。
④ ②と③を数回繰り返し、上体を折らなくても、息を吸ってお腹が膨らむこと、息を吐いてお腹がへこむことが確認できる。
⑤ 素早く吸い、腹部全体を膨らませる。お腹をへこませながらゆっくり静かに吐く。５～１０秒くらいへこませたまま我慢し、勢いよく素早く吸う。
（繰り返し行いながら、腹式呼吸のコツをつかむ。）
＜腹式呼吸＝横隔膜呼吸（横隔膜を上下に動かす呼吸）＞

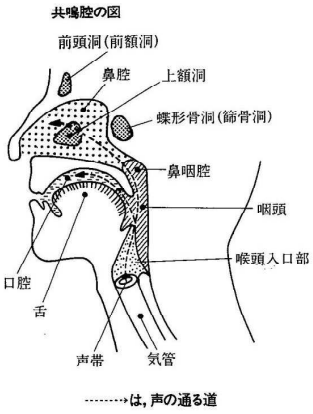


○犬のように　お腹と呼吸の連動を



☆練習曲として
◇楽しい発声のドリル　Ｎｏ．２
（犬のお腹）

響き（共鳴）について　（より自然で豊かな発声のため）



○共鳴
（ピアノの共鳴板・音叉の共鳴箱　ｅｔｃ）

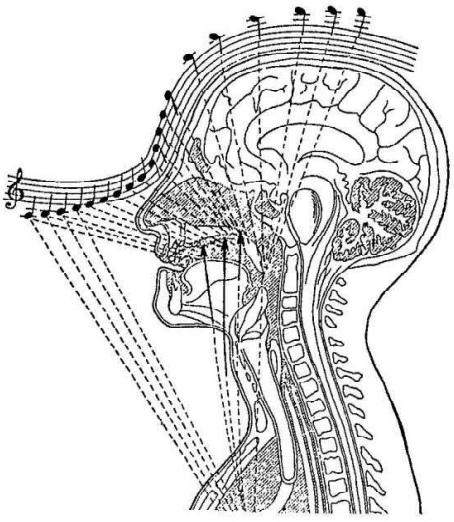
○共鳴腔
鼻腔（びこう・びくう）共鳴
口腔（こうこう・こうくう）共鳴
喉頭腔　共鳴
咽頭腔　共鳴
鼻腔　＞　口腔　＞＞　喉頭腔・咽頭腔
共鳴腔の大きさ
＜指揮者の武田雅博先生の言葉では第３の声＞

◇のどの奥を開ける。
発声のドリルＮｏ．１（あくびの歌）
◇勢いよく息を吸ってのどの奥で涼しく感じるところを意識して

◇いいにおいをかぐ時、鼻腔が開いている状態を意識して

◇鼻の前に手を置いて、手の上から声を出すつもりで歌おうと呼びかける。

リリー・レーマン氏の共鳴と声区の知覚図



（３）発声練習について
○ハミング

○スタッカート唱
「ハッ　ハッ　ハッ」や「ホッ　ホッ　ホッ」

○レガート唱
「あ　え　あ　え　お」「あ　え　い　お　う」

○響きを集めたり豊にしたりする練習
＜ナ行やマ行を上手に入れながら、時にハミングも上手に使って＞　「ナ唱・マ唱・ミ唱」
「み　ん　な　お　あ」
「ん　～　が」
「いー　イ～イ～イ～」＜鼻腔共鳴を意識した練習に＞

文化学園長野保育専門学校研究紀要　投稿規定

１．　目的

文化学園長野保育専門学校研究紀要は、本校における研究・教育活動の成果を広く公表することを目的として発行する。

２．　投稿資格

紀要に投稿できる者は、次のとおりとする。

（1）　本校専任教員および兼任教員

（2）　本校専任教員との共同研究者（この場合は本校専任教員と連名とする）

（3）　編集委員会が執筆を依頼した者、あるいは執筆を認めた者

３．　投稿原稿の種類

原則として、次のとおりとし、未公刊のものに限る。

原著論文、総説論文、研究ノート、報告（実践報告・調査報告）、書評、資料紹介など。

上記の他、紀要編集委員会が適当と認めたもの。

４．　提出原稿

原稿の作成は、別に定める「紀要原稿作成要領」に従って執筆する。

５．　原稿の提出先

本校紀要編集委員会

６．　採択

原稿の採択と調整は、紀要編集委員会で行う。

７．　著作権

掲載された論文などの著作権は、原則として文化学園長野保育専門学校に帰属する。

ただし、著者が自分の論文などを利用することは差し支えない。

編集委員会

守　秀子（委員長）

杉村　僚子

平成 29 年　11 月 6 日発行

文化学園長野保育専門学校
研究紀要　第 9 号

編集発行　学校法人　文化長野学園
文化学園長野保育専門学校
〒380-0915　長野市上千田 141
TEL. 026-227-2090
FAX. 026-224-2200

印刷　松下産業株式会社
〒380-0836　長野市南県町 1035
TEL. 026-266-8456

BULLETIN OF
BUNKA GAKUEN NAGANO NURSERY TECHNICAL COLLEGE

No.9

CONTENTS

A Teaching Practice Report on Environmental Studies :
An Easy Introduction for Children to Zozan Sakuma,
A Scholar in Matsushiro during the End of Edo Period
---------- OYAMADA, Hiroshi

A friendly introduction to and congenial comments on Steven Pinker's
"Science is not the Enemy of the Humanities."
---------- MORI, Hideko
MORI, Kazuo

Outline of a Municipal Childcare Support Project forParents and Early Children in
Nagano Prefecture : Some Examples of Nursery Care in Natural Environment
---------- KURIHARA, Hiroshi

A Guide for Environmental Studies :
Assessment Items for Students in Teaching Traditional Nursery Plays and
Games in Pre-schools
---------- TOYA, Keiko

Creating Picture-Story Board Sets for the Special Support Classes of
Mothers and Children with Developmental Difficulties:
Why We Need It and How We Plan to Make Them
---------- KOIKE, Satoru

A Teachers' Manual for Guiding Children to Enjoy Practicing for the School Concert
---------- OYAMADA, Hiroshi

2017